

適正使用ガイド



抗悪性腫瘍剤(ブルトン型チロシンキナーゼ阻害剤)

薬価基準収載

カルケンス[®]錠 100mg

アカラブルチニブマレイン酸塩水和物

CALQUENCE[®] tablets 100mg

劇薬、処方箋医薬品^(注)
注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

本剤の特に注意を要する副作用

- 出血
- 骨髄抑制
- 虚血性心疾患
- 間質性肺疾患
- 感染症
- 不整脈
- 腫瘍崩壊症候群
- 二次性悪性腫瘍

1. 適正使用のお願い	3
2. 注意を要する副作用とその対策	
1) 出血	10
2) 感染症	19
3) 骨髄抑制	32
4) 不整脈	41
5) 虚血性心疾患	49
6) 腫瘍崩壊症候群	54
7) 間質性肺疾患	58
8) 二次性悪性腫瘍	63
3. 臨床試験における主な選択・除外基準	73
4. Q&A	79

本剤の使用に際しましては、本適正使用ガイド、最新の電子化された添付文書を熟読の上、適正な使用をお願いいたします。

最新の電子化された添付文書は、以下のいずれかの方法によりご確認ください。

- 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 医療用医薬品 情報検索ページにて検索してご覧ください。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

- 専用アプリ「添文ナビ」にて以下のGS1バーコードを読み取り、ご覧ください。



また、本剤の適正使用情報は、安全性情報サイト(<https://med.astrazeneca.co.jp/safety/CAL.html>)からご覧ください。



略語集

CLL：慢性リンパ性白血病

SLL：小リンパ球性リンパ腫

MCL：マンテル細胞リンパ腫

【参考情報】

本剤を実地臨床で使用するにあたって参考となる情報として表記しています。電子化された添付文書等には記載していない情報も含まれています。新たな知見あるいは市販後の副作用発現状況等によって、今後記載内容が変更となる可能性があります。

1. 適正使用のお願い

● 投与に際して

本剤の使用に際しては、投与患者の臨床症状を、判断に必要とされる検査を実施した上で十分に観察し、電子化された添付文書に従い、投与が適切であると判断された患者のみに投与してください。

【効能又は効果】

- 慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む） 再発又は難治性 未治療 未治療（固定期間投与）
- マントル細胞リンパ腫 再発又は難治性 未治療

〈再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）〉

- ・他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していません。

〈未治療の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）〉

- ・本剤と併用する抗悪性腫瘍剤等について、本剤の電子化された添付文書「17. 臨床成績」の項の内容、特に用法及び用量を十分に理解した上で投与してください。
- ・本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ（遺伝子組換え）の併用について、有効性及び安全性は確立していません。
- ・本剤の電子化された添付文書「17. 臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者を選択してください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

- ・ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ（遺伝子組換え）と併用してください。
- ・ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ（遺伝子組換え）以外の他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していません。
- ・本剤と併用する抗悪性腫瘍剤等について、本剤の電子化された添付文書「17. 臨床成績」の項の内容、特に用法及び用量を十分に理解した上で投与してください。
- ・強力な化学療法の適応となる未治療のマントル細胞リンパ腫患者における本剤の有効性及び安全性は確立していません。
- ・本剤の電子化された添付文書「17. 臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者を選択してください。

〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

- ・他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していません。
- ・本剤の電子化された添付文書「17. 臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者を選択してください。特に、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫患者への本剤単独投与については、他の治療の実施についても慎重に検討してください。

● 特に注意すべき患者

■ 以下の薬剤を投与あるいは飲食物を摂取される患者（併用注意）

本剤の副作用が増強されるおそれがあります。

強い又は中程度のCYP3A阻害剤
(イトラコナゾール、クラリスロマイシン、ボリコナゾール等)

併用は可能な限り避け、代替の治療薬への変更を考慮してください。
やむを得ず併用する場合には、患者の状態を慎重に観察し、副作用の発現に十分注意してください。

これらの薬剤等がCYP3Aを阻害することにより、本剤の代謝が阻害され、本剤の血中濃度が上昇する可能性があります。

本剤の効果が減弱するおそれがあります。

強い又は中程度のCYP3A誘導剤
(フェニトイン、リファンピシン、カルバマゼピン等)

併用は可能な限り避け、CYP3A誘導作用のない又は弱い薬剤への代替を考慮してください。

これらの薬剤等がCYP3Aを誘導することにより、本剤の代謝が促進され、本剤の血中濃度が低下する可能性があります。

セイヨウオトギリソウ (St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート) **含有食品**

摂取しないよう患者に指導してください。

出血のおそれがあります。

抗凝固剤、抗血小板剤

出血のおそれがあるため、併用に注意してください。

出血のリスクを増強させるおそれがあります。

1. 適正使用のお願い

参考 CYP3A 阻害剤の強度別一覧

強い阻害剤	中程度の阻害剤	弱い阻害剤
相互作用を受けやすい基質薬のAUCが10倍以上に上昇(CL/Fが1/10未満に減少)	相互作用を受けやすい基質薬のAUCが2倍以上5倍未満に上昇(CL/Fが1/2未満1/5以上に減少)	相互作用を受けやすい基質薬のAUCが1.5倍以上2倍未満に上昇(CL/Fが1/1.5未満1/2以上に減少)
コビシスタット イトラコナゾール リトナビル ポリコナゾール ポサコナゾール ケトコナゾール* インジナビル テラプレビル (conivaptan) (troleandomycin)	アプレピタント アタザナビル シプロフロキサシン クリゾチニブ シクロスポリン ジルチアゼム エリスロマイシン フルコナゾール ホスアンブレナビル イマチニブ イストラデフィリン ミコナゾール トフィンパム ベラパミル アンブレナビル (casopitant) (dronedarone)	シロスタゾール シメチジン フルボキサミン ホスアプレピタントメグルミン ラニチジン タクロリムス クロトリマゾール ロミタピド チカグレロル クロルゾキサゾン (ivacaftor) (ranolazine) (tabimorelin)
相互作用を受けやすい基質薬のAUCが5倍以上に上昇(CL/Fが1/5未満に減少)		
クラリスロマイシン グレープフルーツジュース ネルフィナビル サキナビル (boceprevir) (nefazodone)		

英字表記の薬剤は本邦未承認(2026年3月現在)

グレー細文字の薬剤は販売中止

※：経口剤は本邦未発売

厚生労働省 医薬品開発と適正な情報提供のための薬物相互作用ガイドライン(最終案)平成26年7月8日より改変

■ 重度の心疾患*を有する患者

*：コントロール不能又は症候性の不整脈、うっ血性心不全、心筋梗塞など

- ・ 重度の心疾患を有する患者を対象とした臨床試験は実施しておりません。
 - ・ 本剤の投与により不整脈があらわれることがあります。
- ➡「2.注意を要する副作用とその対策」の4)不整脈(p.41)をご参照ください。

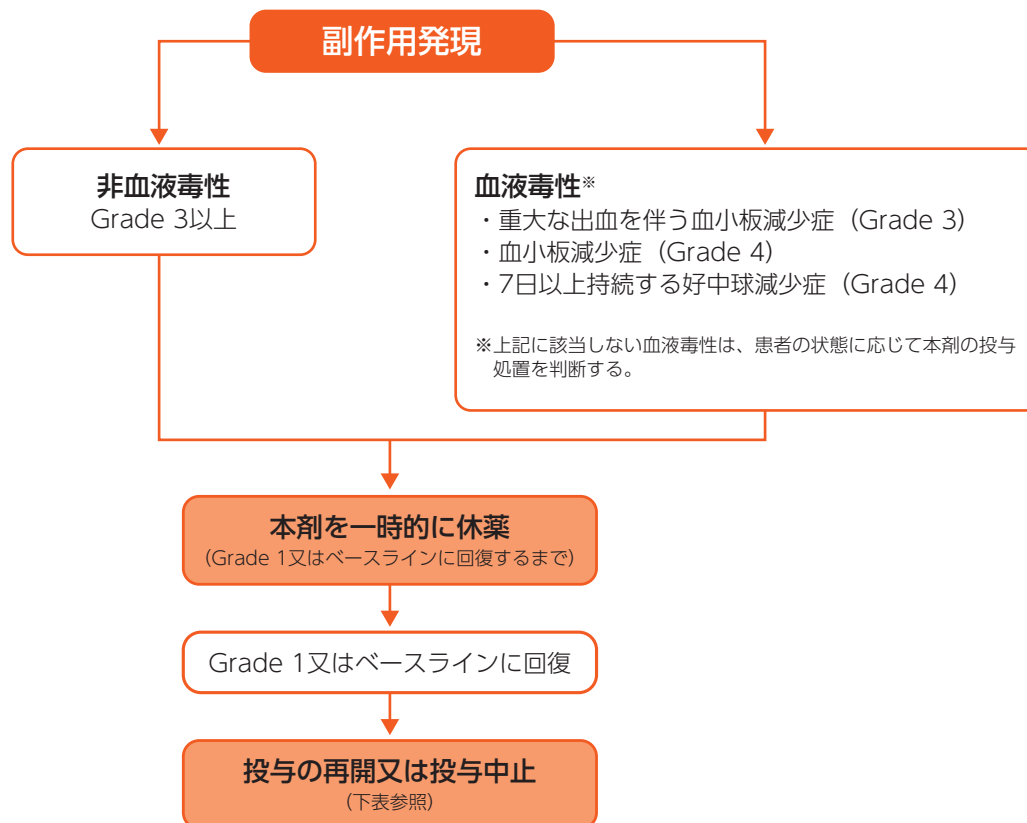
■ 重度の肝機能障害患者*

*：Child-Pugh分類C又は総ビリルビンが基準値上限の3倍以上

- ・ 可能な限り投与を避けてください。やむを得ず投与する場合には、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意してください。本剤の血中濃度が上昇し、副作用が強くあらわれるおそれがあります。

● 副作用発現時の対応

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉
副作用が発現した場合には、以下のとおり、本剤の一時的な休薬、投与中止又は用量調節を行ってください。



用量調節の目安

発現回数	回復後の再開時投与量
1又は2回	1回100mgを1日2回
3回	1回100mgを1日1回
4回	投与中止

注) GradeはNCI-CTCAE(Common Terminology Criteria for Adverse Events)v4.0に準じる。

1. 適正使用のお願い

参考 海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) におけるアカラブルチニブ及びベネトクラクスの休薬、減量、中止基準 (AMPLIFY試験 実施計画書より抜粋)

副作用	程度	処置
血液毒性 ^a		
好中球減少症	・ (発熱及び/又は感染を伴う/伴わない) Grade 3 又は4の好中球減少症 ・ 7日を超えて継続するGrade 4の好中球減少症	- アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスの投与を中断。 - 成長因子は医師の裁量にて投与してもよい。Grade 1以下又はベースライン値に回復すれば、前回用量でアカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを投与再開。 2回目: Grade 1以下又はベースライン値に回復するまでアカラブルチニブを休薬。回復後、アカラブルチニブは前回用量で再開。毒性がアカラブルチニブとベネトクラクス併用中に発現した場合は、Grade 1以下又はベースライン値に回復するまで、両剤を休薬。回復後、アカラブルチニブは前回用量で、ベネトクラクスは1段階低い用量で再開。 3回目以降: 用量調節に関してメディカルモニターに相談。
血小板減少症及び/又は出血	Grade 3又は4	- アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを休薬。 - 血小板は医師の裁量により輸血してもよい。輸血による支持療法なしで連続5日間、Grade 1以下又はベースライン値までに回復すれば、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを前回用量で再開。 2回目: 出血が消失し、Grade 1以下又はベースライン値に回復するまでアカラブルチニブ及びベネトクラクスを休薬。回復後、アカラブルチニブは前回用量で再開し、ベネトクラクスは1段階低い用量で再開。 3回目以降の重度の血小板減少症発現時: 出血が消失し、Grade 1以下又はベースライン値に回復するまで、アカラブルチニブ及びベネトクラクスを休薬。回復後、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスは1段階低い用量で再開。 - 用量減量後、重度の血小板減少症が再発する場合及び/又は症候性出血を伴う場合: 試験継続可否についてメディカルモニターに相談。
非血液毒性		
腫瘍崩壊症候群 (TLS)	Grade 3又は4	初回及びそれ以降の発現 - TLSを疑う血液学的変化が認められた場合: 翌日のベネトクラクス (及びアカラブルチニブ) は休薬。最終投与から24~48時間以内に回復すれば、前回用量で再開。 - 臨床的TLS事象又は回復に48時間を超える時間を要する血液学的変化: ベネトクラクスは1段階低い用量で再開。TLSにより治療を中断した後に再開する場合は、ベネトクラクスについてTLS予防及びモニタリングを実施する。
上記以外のその他の非血液毒性	Grade 3	- Grade 1以下に回復するまでアカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを休薬。回復後、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを前回用量で再開。 2回目: Grade 1以下に回復するまでアカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを休薬。アカラブルチニブ (及びベネトクラクス) の再開はメディカルモニターに相談。
	Grade 4	- Grade 1以下に回復するまで、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを休薬。回復後、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスは1段階低い用量で再開。 2回目: Grade 1以下に回復するまで、アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスを休薬。アカラブルチニブ及び/又はベネトクラクスの再開についてはメディカルモニターに相談。 - 特定の治療開始後に発現する非血液学的有害事象 (例: 静脈血栓塞栓症) は、臨床的に安定しているもののGrade 1以下に回復しない場合があるため、当該事象を認めた際はメディカルモニターに相談の上、再開が可能な場合がある。
	Grade 2	Grade 1以下 (又はベースライン値) に回復するまで、アカラブルチニブ及びベネトクラクスを休薬。アカラブルチニブ及びベネトクラクスは前回用量で再開。
	Grade 1	減量及び投与延期は必要ない。

a: ベースライン時に血球減少 (基準範囲下限値未満) を認める患者に対する用量調節の判断は、慢性リンパ性白血病試験における血液毒性のNCIグレーディングスケールに基づいて行う。

重症度: 非血液系及び血液系AEの重症度分類には、CTCAE v5.0以降の定義が使用される。

アカラブルチニブの用量調節

中断時の用量	再開時の用量
100mg 1日2回	100mg 1日1回
100mg 1日1回	投与中止

腫瘍崩壊症候群及びその他の毒性に対するペネトフラクスの用量調節

中断時の用量 (mg)	再開時の用量 (mg)
400	300
300	200
200	100
100	50
50	20
20	10

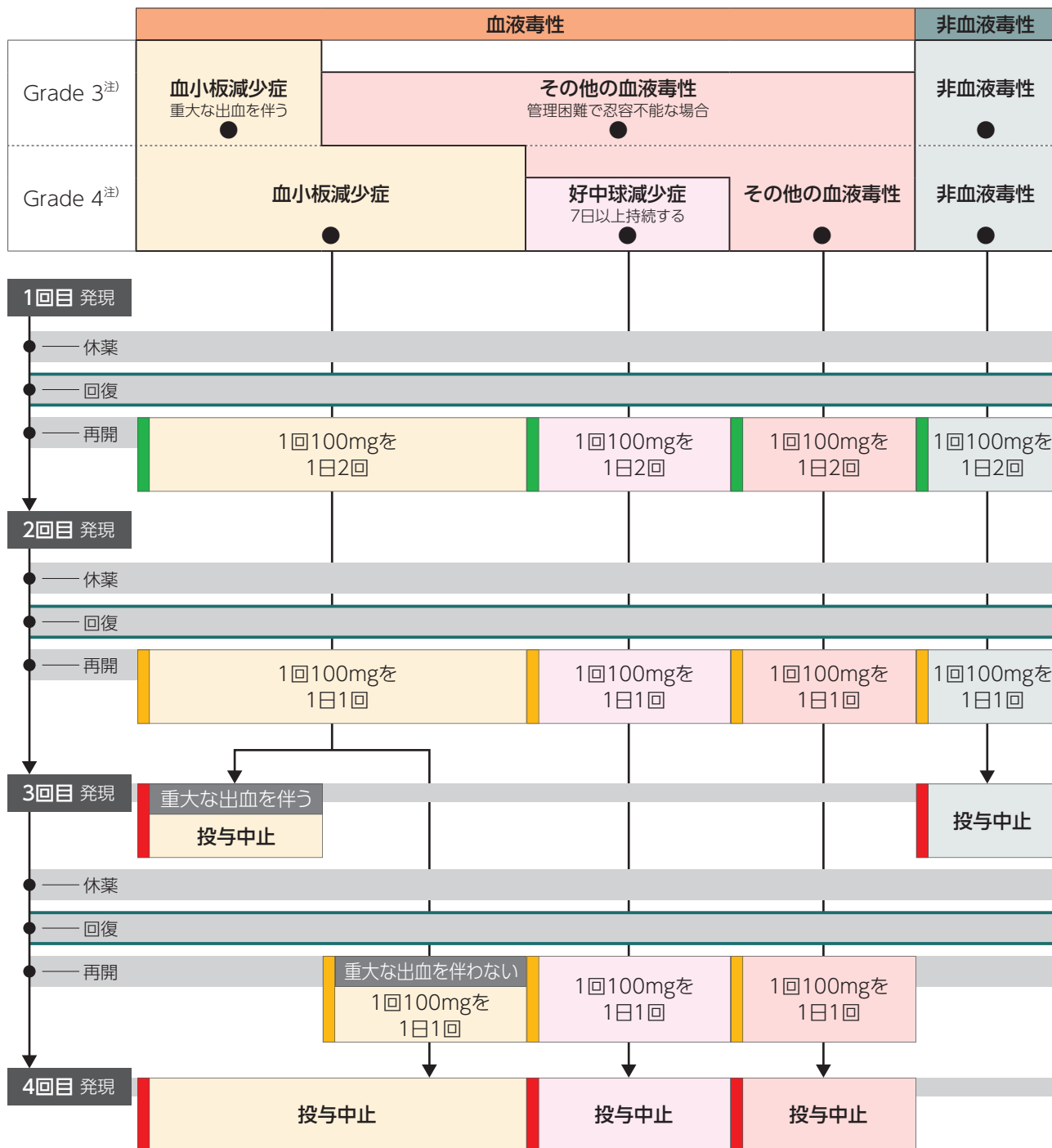
他剤と併用する際の副作用発現時の対応については、併用する各薬剤の電子化された添付文書をご参照ください。

1. 適正使用のお願い

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

副作用が発現した場合には、以下の目安を参考に用量調節を行ってください。

カルケンス



注) GradeはNCI-CTCAE v4.0に準じる。

回復の基準：

- ・ ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ(遺伝子組換え)と併用する場合：Grade 2以下又はベースライン
- ・ ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ(遺伝子組換え)と併用投与終了後の維持療法としてのリツキシマブ(遺伝子組換え)との併用投与時及びその後の本剤単独投与時：Grade 1又はベースライン

他剤と併用する際の副作用発現時の対応については、併用する各薬剤の電子化された添付文書をご参照ください。

参考 ベンダムスチン塩酸塩の電子化された添付文書より引用

ベンダムスチン塩酸塩

- ・ベンダムスチン塩酸塩による治療中に高度の骨髄抑制が認められた場合には、次のような目安により、適切に休薬、減量又は投与中止を考慮すること。

投与間隔又は投与量の調節		指標
休薬	次サイクル投与開始にあたり、骨髄抑制が下記の指標に回復するまで休薬すること。	
	未治療のマントル細胞リンパ腫の場合〈アカラブルチニブマレイン酸塩水和物及びリツキシマブ(遺伝子組換え)併用の場合〉	好中球数 $1,000/\text{mm}^3$ 以上、血小板数 $50,000/\text{mm}^3$ 以上及びその他の血液毒性がGrade 2*以下又はベースライン
減量又は中止	治療中に、下記の指標に該当する骨髄抑制が認められた場合には、休薬の項の指標に回復したことを確認の上、次サイクルの投与を開始すること。その場合、以下のとおり減量又は投与中止を考慮すること。	
	未治療のマントル細胞リンパ腫の場合〈アカラブルチニブマレイン酸塩水和物及びリツキシマブ(遺伝子組換え)併用の場合〉	好中球数 $1,000/\text{mm}^3$ 未満、血小板数 $50,000/\text{mm}^3$ 未満又はGrade 4*のその他の血液毒性
	・前サイクル投与量 $90\text{mg}/\text{m}^2$ の場合： $70\text{mg}/\text{m}^2$ に減量 ・前サイクル投与量 $70\text{mg}/\text{m}^2$ の場合：投与中止	

- ・ベンダムスチン塩酸塩による治療中に非血液毒性が認められた場合には、次のような目安により、適切に休薬、減量又は投与中止を考慮すること。

投与間隔又は投与量の調節		指標
休薬	次サイクル投与開始にあたり、臨床検査値等が下記の指標に回復するまで休薬すること。	
	未治療のマントル細胞リンパ腫の場合〈アカラブルチニブマレイン酸塩水和物及びリツキシマブ(遺伝子組換え)併用の場合〉	Grade 1*又はベースライン
減量又は中止	治療中に、下記の指標に該当する副作用が認められた場合には、休薬の項の指標に回復したことを確認の上、次サイクルの投与を開始すること。その場合、以下のとおり減量又は投与中止を考慮すること。	
	未治療のマントル細胞リンパ腫の場合〈アカラブルチニブマレイン酸塩水和物及びリツキシマブ(遺伝子組換え)併用の場合〉	Grade 3*以上の非血液毒性
	・前サイクル投与量 $90\text{mg}/\text{m}^2$ の場合： $70\text{mg}/\text{m}^2$ に減量 ・前サイクル投与量 $70\text{mg}/\text{m}^2$ の場合：投与中止	

※NCI-CTCAE Version 4.0

最新のベンダムスチン塩酸塩の電子化された添付文書情報は、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」にてご確認ください(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)。

2. 注意を要する副作用とその対策

1) 出血

- 頭蓋内血腫、胃腸出血、網膜出血等の重篤な出血があらわれることがあり、アカラブルチニブ(カプセル剤)において死亡に至った例が報告されています。
- 抗凝固剤、抗血小板剤との併用により、出血のリスクが増大するおそれがあります。やむを得ず併用する場合には、患者の状態を慎重に観察し、副作用の発現に十分注意してください。
- 本剤投与中に手術や侵襲的手技を実施する患者に対しては、手術等の少なくとも前後3日間は本剤の投与を一時中断することを考慮してください。
- 血小板減少症の有無にかかわらず、アカラブルチニブ(カプセル剤)投与により出血性事象(挫傷、血腫等)が報告されています。
(慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)) (再発又は難治性のマンテル細胞リンパ腫)
- 重大な出血を伴う血小板減少症(Grade 3)・血小板減少症(Grade 4)が発現した場合は、Grade 1又はベースラインに回復するまで本剤を一時的に休薬してください。
(未治療のマンテル細胞リンパ腫)
- 重大な出血を伴う血小板減少症(Grade 3)・血小板減少症(Grade 4)が発現した場合は、回復*するまで本剤を一時的に休薬してください(*: 回復の基準はp.8参照)。

発現状況

海外臨床試験

出血関連事象*は下表のとおり報告されています。

*: 集計対象: MedDRA/J SMQ (標準検索式)「出血関連用語(臨床検査用語を除く)」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	40(26.0)	3(1.9)	11(7.2)	4(2.6)

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*: 試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

アカラブルチニブ(カプセル剤)群において2例以上発現した有害事象一覧

	全Grade	Grade 3以上
挫傷	13(8.4)	0
血腫	9(5.8)	0
点状出血	4(2.6)	0
結膜出血	3(1.9)	0
皮膚出血	3(1.9)	0
胃腸出血	2(1.3)	2(1.3)
斑状出血	2(1.3)	0
鼻出血	2(1.3)	0
処置後出血	2(1.3)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)^{注)}

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	76(42.7)	3(1.7)	70(39.1)	3(1.7)	20(11.8)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*: chlorambucilは本邦未承認

注) 本概要においては、治験薬の初回投与日以降かつ治験薬の最終投与30日後までに発現した有害事象又は治療開始前に発現していたが治験薬の初回投与日以降かつ治験薬の最終投与30日後までに悪化した有害事象を試験治療下で発現した有害事象と定義した。以下、特に記載のない限り、本概要中に記載する有害事象は全て試験治療下で発現した有害事象を指す。

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群において3例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
挫傷	42(23.6)	0	27(15.1)	0	7(4.1)	0
点状出血	14(7.9)	0	16(8.9)	0	0	0
鼻出血	13(7.3)	0	10(5.6)	0	2(1.2)	0
血腫	9(5.1)	0	7(3.9)	0	1(0.6)	0
斑状出血	7(3.9)	0	8(4.5)	0	0	0
内出血発生の増加傾向	6(3.4)	0	8(4.5)	0	2(1.2)	0
耳出血	3(1.7)	0	0	0	0	0
喀血	3(1.7)	0	4(2.2)	0	2(1.2)	0
メレナ	3(1.7)	0	0	0	0	0
血尿	2(1.1)	0	7(3.9)	0	0	0
紫斑	2(1.1)	0	4(2.2)	0	1(0.6)	0
痔出血	1(0.6)	0	3(1.7)	0	0	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*: chlorambucilは本邦未承認

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ又は ベンダムスチン + リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	94 (32.3)	3 (1.0)	86 (30.3)	6 (2.1)	11 (4.2)	1 (0.4)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*: 本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群又はアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群*において3例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ又は ベンダムスチン + リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
挫傷	40 (13.7)	0	44 (15.5)	0	4 (1.5)	0
血腫	17 (5.8)	1 (0.3)	9 (3.2)	0	1 (0.4)	0
点状出血	14 (4.8)	0	15 (5.3)	0	0	0
斑状出血	8 (2.7)	0	11 (3.9)	0	0	0
鼻出血	5 (1.7)	0	12 (4.2)	0	2 (0.8)	0
紫斑	5 (1.7)	0	6 (2.1)	0	0	0
内出血発生の増加傾向	4 (1.4)	0	1 (0.4)	0	0	0
血精液症	3 (1.0)	0	1 (0.4)	0	0	0
血尿	3 (1.0)	0	8 (2.8)	1 (0.4)	2 (0.8)	0

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*: 本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	46(37.1)	5(4.0)
挫傷	16(12.9)	0
点状出血	11(8.9)	0
鼻出血	9(7.3)	0
血腫	8(6.5)	1(0.8)
紫斑	6(4.8)	0
斑状出血	4(3.2)	0
内出血発生の増加傾向	3(2.4)	0
胃腸出血	2(1.6)	2(1.6)
血尿	2(1.6)	1(0.8)
硬膜下血腫	1(0.8)	1(0.8)
血性水疱	1(0.8)	0
結膜出血	1(0.8)	0
血便排泄	1(0.8)	0
出血性素因	1(0.8)	0
眼窩周囲血腫	1(0.8)	0
処置後出血	1(0.8)	0
直腸出血	1(0.8)	0
血管穿刺部位血腫	1(0.8)	0

MedDRA/J version 23.0

例数(%)

ASCEND試験、ELEVATE-TN試験、AMPLIFY試験及びACE-LY-004試験にて死亡に至った出血の症例は報告されていないものの、その他の海外臨床試験(原発性マクログロブリン血症患者を対象とした第Ⅱ相試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係が否定できない死亡例が1例報告されています。当該症例はアカラブルチニブ(カプセル剤)の最終投与後30日以内の死亡例で、アカラブルチニブ(カプセル剤)投与開始から173日目に頭蓋内血腫を発現し、事象発現時には肺塞栓症に対する治療薬(アピキサバン)が併用されていた患者でした。

2. 注意を要する副作用とその対策

国際共同臨床試験

出血関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「出血関連用語(臨床検査用語を除く)」

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	84 (28.3)	6 (2.0)	51 (17.2)	10 (3.4)

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群において2例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
挫傷	33 (11.1)	0	16 (5.4)	0
血尿	12 (4.0)	2 (0.7)	2 (0.7)	1 (0.3)
血腫	11 (3.7)	1 (0.3)	4 (1.3)	0
斑状出血	9 (3.0)	1 (0.3)	4 (1.3)	0
結膜出血	9 (3.0)	0	0	0
鼻出血	8 (2.7)	0	4 (1.3)	0
紫斑	7 (2.4)	0	2 (0.7)	0
点状出血	6 (2.0)	0	1 (0.3)	0
直腸出血	5 (1.7)	0	1 (0.3)	0
口腔内出血	3 (1.0)	0	1 (0.3)	0
出血性素因	2 (0.7)	0	1 (0.3)	0
内出血発生の増加傾向	2 (0.7)	0	4 (1.3)	0
処置後出血	2 (0.7)	0	0	0
腔出血	2 (0.7)	0	1 (0.3)	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った出血関連事象の報告はありませんでした。

国内臨床試験

出血関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「出血関連用語 (臨床検査用語を除く)」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

CLL/SLL 再発又は難治性

CLL 未治療

	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	4 (44.4)	0	3 (30.0)	0
紫斑	4 (44.4)	0	2 (20.0)	0
点状出血	0	0	1 (10.0)	0

MedDRA/J version 24.0

例数 (%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
出血関連事象	4 (30.8)	0
咯血	2 (15.4)	0
紫斑	2 (15.4)	0
鼻出血	1 (7.7)	0
血尿	1 (7.7)	0
点状出血	1 (7.7)	0

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、死亡に至った出血関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における出血関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=154)	3-＜6カ月 (N=151)	6-＜9カ月 (N=145)	9-＜12カ月 (N=142)	12-＜15カ月 (N=132)	15-＜18カ月 (N=91)	18-＜21カ月 (N=38)
出血関連事象	32(20.8)	4(2.6)	1(0.7)	1(0.7)	1(0.8)	1(1.1)	0
重大な出血関連事象*	0	1(0.7)	0	1(0.7)	1(0.8)	0	0

例数(%)

*：出血関連事象のサブカテゴリーである重大な出血関連事象とは、Grade 3以上の出血関連事象、重篤と判断された出血関連事象、及び／又はGrade又は重篤性を問わない中枢神経系の出血と定義した。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群における出血関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=178)	3-＜6カ月 (N=178)	6-＜9カ月 (N=174)	9-＜12カ月 (N=171)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=167)	18-＜21カ月 (N=165)	21-＜24カ月 (N=164)	24カ月以降 (N=161)
出血関連事象	59(33.1)	7(3.9)	2(1.1)	1(0.6)	1(0.6)	3(1.8)	1(0.6)	1(0.6)	1(0.6)
重大な出血関連事象*	2(1.1)	0	1(0.6)	0	0	1(0.6)	0	0	1(0.6)

例数(%)

アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=179)	3-＜6カ月 (N=175)	6-＜9カ月 (N=171)	9-＜12カ月 (N=169)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=166)	18-＜21カ月 (N=164)	21-＜24カ月 (N=162)	24カ月以降 (N=156)
出血関連事象	48(26.8)	10(5.7)	4(2.3)	1(0.6)	3(1.8)	1(0.6)	2(1.2)	0	1(0.6)
重大な出血関連事象*	1(0.6)	0	0	1(0.6)	0	1(0.6)	0	0	0

例数(%)

*：出血関連事象のサブカテゴリーである重大な出血関連事象とは、Grade 3以上の出血関連事象、重篤と判断された出血関連事象、及び／又はGrade又は重篤性を問わない中枢神経系の出血と定義した。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群における出血関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=291)	3-＜6カ月 (N=286)	6-＜9カ月 (N=279)	9-＜12カ月 (N=276)	12-＜15カ月 (N=267)	15-＜18カ月 (N=8)	18-＜21カ月 (N=1)	21-＜24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
出血関連事象	63 (21.6)	20 (7.0)	4 (1.4)	5 (1.8)	2 (0.7)	0	0	0	0
重大な出血関連事象*	2 (0.7)	0	0	1 (0.4)	0	0	0	0	0

例数 (%)

*：出血関連事象のサブカテゴリーである重大な出血関連事象とは、Grade 3以上の出血関連事象、重篤と判断された出血関連事象、及び／又はGrade又は重篤性を問わない中枢神経系の出血と定義した。

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における出血関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
出血関連事象	25 (20.2)	5 (4.6)	7 (7.7)	0	1 (1.4)	2 (2.9)	1 (1.7)	0	5 (9.3)
重大な出血関連事象*	0	1 (0.9)	0	0	0	0	2 (3.3)	0	2 (3.7)

例数 (%)

*：出血関連事象のサブカテゴリーである重大な出血関連事象とは、Grade 3以上の出血関連事象、重篤と判断された出血関連事象、又はGradeもしくは重篤性を問わない中枢神経系の出血と定義した。

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群における出血関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
出血関連事象	34 (11.4)	18 (6.5)	10 (3.9)	7 (2.9)	3 (1.3)	0	2 (1.0)	1 (0.5)	9 (5.0)
重大な出血関連事象*	2 (0.7)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0	0	0	2 (1.1)

例数 (%)

*：出血関連事象のサブカテゴリーである重大な出血関連事象とは、Grade 3以上の出血関連事象、重篤と判断された出血関連事象、又はGradeもしくは重篤性を問わない中枢神経系の出血と定義した。

2. 注意を要する副作用とその対策

臨床症状及び検査所見

自覚的症状は、最初は皮膚・粘膜・運動器の出血症状が出現することが多く、紫斑、点状出血、創部や穿刺部の出血・止血困難、血腫、関節腫脹、鼻出血、歯肉出血、過多月経などで気づき、出血部位に疼痛を伴うことがあります。また、稀に最初から以下の臓器症状が出現することもあります。

他覚的症状(所見)でも、最初は皮膚・粘膜・運動器の出血症状が多く、紫斑、点状出血斑、鼻出血、歯肉出血、過多月経、創部や穿刺部の出血・止血困難、ドレナージからの出血量の増大、血腫、関節の腫れなどがあり、圧痛を認めることが多くあります。

以下にそれぞれの臓器別の所見を示します。

	自覚的症状	他覚的症状(所見)
頭蓋内出血	吐き気、めまい、頭痛、項部硬直、意識障害、麻痺、視力障害、感覚障害など。	項部硬直、意識障害、麻痺、視力障害、感覚障害、腱反射の亢進、異常反射の出現など。
消化器系出血	食欲不振、腹痛、吐き気、腹部膨満感などの症状があり、進行すると大量下血や吐血がみられる。	便潜血陽性、血便
泌尿器系出血	顕在化する前には頻尿、排尿時痛、下腹部痛の症状がみられ、進行すると肉眼的血尿が出現する。	血尿、尿潜血
眼部出血	初期には目がかすむなどの症状があり、進行すると視力障害が出現する。重症の場合は失明の危険性がある。	視力障害、視野欠損
呼吸器系出血	血痰、咳、胸痛、呼吸困難などがあり、進行すると咯血が出現する。	血痰、画像の異常

重篤副作用疾患別対応マニュアル 出血傾向(平成19年6月(令和4年2月改定))

対処法

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

⇒「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.5)をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

⇒「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.8～9)をご参照ください。

参考 臨床試験時の対応

中枢神経系、呼吸器、及び胃腸出血を含む出血例(死亡例を含む)がアカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で報告されています。

除外基準 ワルファリン又は同等のビタミンK拮抗薬による抗凝固療法を要する患者は除外されていました。

モニタリング 抗血小板薬又は抗凝固薬を投与されている患者では出血のリスクが高くなる可能性があり、出血の徴候がないかモニタリングすべきであるとされていました。

予防措置 予防措置として手術の少なくとも前後3日間はアカラブルチニブ(カプセル剤)の投与を一時的に中断することを検討し、出血が認められた症例は、施設内ガイドライン又は臨床的必要性に応じて管理すると規定されていました。

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験、ELEVATE-TN試験、AMPLIFY試験)、海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)、国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)及び国内第Ⅰ相試験(D8220C00001試験)実施計画書

2) 感染症

- 細菌、真菌、ウイルスによる肺炎等の重篤な感染症があらわれることがあり、アカラブルチニブ(カプセル剤)において死亡に至った例が報告されています。また、アカラブルチニブ(カプセル剤)において日和見感染症やB型肝炎ウイルスの再活性化が報告されています。
- 本剤投与に先立って肝炎ウイルス等の感染の有無を確認してください。
- 特に日和見感染症の発症リスクの高い患者には本剤投与前に適切な予防的処置を考慮し、本剤投与中は感染症の徴候や症状に十分注意してください。
- B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者(HBs抗原陰性、かつHBc抗体又はHBs抗体陽性)に対し、本剤の投与開始後は継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行い、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意してください。

発現状況

海外臨床試験

感染症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 器官別大分類の「感染症および寄生虫症」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	87(56.5)	23(14.9)	94(61.4)	37(24.2)

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

アカラブルチニブ(カプセル剤)群において2例以上発現した有害事象一覧

	全Grade	Grade 3以上
上気道感染	22(14.3)	3(1.9)
肺炎	16(10.4)	8(5.2)
気道感染	16(10.4)	2(1.3)
気管支炎	13(8.4)	0
鼻炎	9(5.8)	0
上咽頭炎	7(4.5)	0
尿路感染	5(3.2)	2(1.3)
咽頭炎	5(3.2)	0
副鼻腔炎	5(3.2)	0
肺感染	4(2.6)	1(0.6)
結膜炎	3(1.9)	0
帯状疱疹	3(1.9)	0
下気道感染	3(1.9)	0
大腸菌性尿路感染	2(1.3)	1(0.6)

2. 注意を要する副作用とその対策

	全Grade	Grade 3以上
胃腸炎	2 (1.3)	1 (0.6)
中耳炎	2 (1.3)	1 (0.6)
耳感染	2 (1.3)	0
ウイルス性気道感染	2 (1.3)	0
歯感染	2 (1.3)	0
ウイルス感染	2 (1.3)	0

MedDRA/J version 21.1

例数 (%)

海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)において、アカラブルチニブ (カプセル剤) 群で死亡に至った感染症関連事象として敗血症が1例 (アカラブルチニブ (カプセル剤) との因果関係なし) 報告されました。

また、対照群からアカラブルチニブ (カプセル剤) 群へクロスオーバーした症例で、アカラブルチニブ (カプセル剤) との因果関係が否定できない死亡に至った肺炎が1例報告されました。当該症例は、H1N1インフルエンザ及び虚血性脳卒中を併発していた患者でした。

■ 日和見感染症

アカラブルチニブ (カプセル剤) 群における水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症は、4例 (予防投与実施例2例、予防投与未実施例2例) に認められました。

サイトメガロウイルス、結核菌、ニューモシスチス・イロペチイによる感染症は認められませんでした。

■ B型肝炎ウイルスの再活性化

アカラブルチニブ (カプセル剤) 群におけるB型肝炎ウイルスによる感染症は、1例 (予防投与未実施例) に認められました。

海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ 併用投与群 (N=178)		アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)		オビヌツズマブ + chlorambucil* 群 (N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	123 (69.1)	37 (20.8)	117 (65.4)	25 (14.0)	74 (43.8)	14 (8.3)

MedDRA/J version 21.1

例数 (%)

*: chlorambucilは本邦未承認

アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群において3例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ 併用投与群 (N=178)		アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)		オビヌツズマブ + chlorambucil* 群 (N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
上気道感染	38 (21.3)	4 (2.2)	33 (18.4)	0	14 (8.3)	1 (0.6)
尿路感染	22 (12.4)	1 (0.6)	22 (12.3)	3 (1.7)	8 (4.7)	0

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
上咽頭炎	20(11.2)	1(0.6)	17(9.5)	0	7(4.1)	0
肺炎	19(10.7)	10(5.6)	13(7.3)	4(2.2)	5(3.0)	3(1.8)
副鼻腔炎	16(9.0)	0	12(6.7)	0	6(3.6)	0
気管支炎	15(8.4)	0	14(7.8)	0	5(3.0)	0
帯状疱疹	11(6.2)	3(1.7)	5(2.8)	0	4(2.4)	0
蜂巣炎	10(5.6)	2(1.1)	8(4.5)	3(1.7)	1(0.6)	1(0.6)
下気道感染	8(4.5)	3(1.7)	6(3.4)	0	2(1.2)	0
気道感染	6(3.4)	1(0.6)	4(2.2)	2(1.1)	3(1.8)	1(0.6)
インフルエンザ	5(2.8)	1(0.6)	6(3.4)	0	2(1.2)	0
結膜炎	5(2.8)	0	3(1.7)	0	6(3.6)	0
ウイルス感染	4(2.2)	1(0.6)	2(1.1)	0	1(0.6)	0
眼感染	4(2.2)	0	1(0.6)	0	0	0
皮膚真菌感染	4(2.2)	0	2(1.1)	0	2(1.2)	0
口腔ヘルペス	4(2.2)	0	2(1.1)	0	7(4.1)	0
敗血症	3(1.7)	3(1.7)	0	0	2(1.2)	2(1.2)
尿路性敗血症	3(1.7)	3(1.7)	0	0	1(0.6)	1(0.6)
憩室炎	3(1.7)	0	0	0	1(0.6)	1(0.6)
ウイルス性消化管感染	3(1.7)	0	0	0	0	0
限局性感染	3(1.7)	0	2(1.1)	0	0	0
口腔カンジダ症	3(1.7)	0	4(2.2)	0	2(1.2)	0
鼻炎	3(1.7)	0	4(2.2)	0	1(0.6)	0
ライノウイルス感染	3(1.7)	0	1(0.6)	0	0	0
皮膚感染	3(1.7)	0	2(1.1)	0	0	0
肺感染	2(1.1)	0	3(1.7)	1(0.6)	0	0
ウイルス性胃腸炎	1(0.6)	0	5(2.8)	0	0	0
胃腸炎	0	0	4(2.2)	1(0.6)	1(0.6)	1(0.6)
ウイルス性上気道感染	0	0	3(1.7)	0	0	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

* : chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群で死亡に至った感染症関連事象として、肺炎が1例、敗血症が2例報告されました。

アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で死亡に至った感染症関連事象として、気管支肺アスペルギルス症が1例、敗血症性ショックが1例報告されました。

いずれもアカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なしと判断されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ又は ベンダムスチン + リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	148 (50.9)	36 (12.4)	153 (53.9)	67 (23.6)	82 (31.7)	26 (10.0)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*: 本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群又はアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群*において3例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ又は ベンダムスチン + リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
COVID-19	55 (18.9)	8 (2.7)	58 (20.4)	19 (6.7)	6 (2.3)	4 (1.5)
上気道感染	24 (8.2)	1 (0.3)	18 (6.3)	0	5 (1.9)	0
COVID-19肺炎	21 (7.2)	16 (5.5)	35 (12.3)	33 (11.6)	7 (2.7)	7 (2.7)
肺炎	11 (3.8)	4 (1.4)	15 (5.3)	11 (3.9)	8 (3.1)	6 (2.3)
尿路感染	9 (3.1)	0	17 (6.0)	1 (0.4)	10 (3.9)	0
副鼻腔炎	8 (2.7)	0	7 (2.5)	0	2 (0.8)	0
気管支炎	6 (2.1)	0	7 (2.5)	0	2 (0.8)	1 (0.4)
带状疱疹	5 (1.7)	0	4 (1.4)	1 (0.4)	4 (1.5)	1 (0.4)
鼻炎	5 (1.7)	0	2 (0.7)	0	3 (1.2)	0
上咽頭炎	4 (1.4)	0	3 (1.1)	0	5 (1.9)	0
爪囲炎	4 (1.4)	0	0	0	0	0
結膜炎	3 (1.0)	0	8 (2.8)	0	1 (0.4)	0
単純ヘルペス	3 (1.0)	0	1 (0.4)	0	3 (1.2)	0
インフルエンザ	3 (1.0)	0	3 (1.1)	0	0	0
ライム病	3 (1.0)	0	0	0	0	0
口腔ヘルペス	3 (1.0)	0	4 (1.4)	0	3 (1.2)	0
気道感染	3 (1.0)	0	1 (0.4)	0	1 (0.4)	0
COVID-19の疑い	3 (1.0)	0	3 (1.1)	0	1 (0.4)	1 (0.4)
蜂巣炎	2 (0.7)	0	5 (1.8)	0	1 (0.4)	0
毛包炎	2 (0.7)	0	3 (1.1)	1 (0.4)	1 (0.4)	0
感染	1 (0.3)	1 (0.3)	3 (1.1)	1 (0.4)	5 (1.9)	2 (0.8)

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ペネトクラクス 併用投与群(N=291)		アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ペネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
精巣上体炎	1 (0.3)	0	3 (1.1)	0	0	0
急性COVID-19後症候群	1 (0.3)	0	4 (1.4)	0	0	0
皮膚感染	1 (0.3)	0	3 (1.1)	0	0	0
ヘモフィルス感染	0	0	3 (1.1)	0	0	0
下気道感染	0	0	5 (1.8)	2 (0.7)	0	0
ウイルス感染	0	0	3 (1.1)	0	1 (0.4)	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

*：本剤、ペネトクラクス及びオビヌツズマブ(遺伝子組換え)の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験(AMPLIFY試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ペネトクラクス併用投与群で死亡に至った感染症関連事象として、COVID-19肺炎が6例、COVID-19が2例、感染が1例(いずれもアカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	84(67.7)	21(16.9)

MedDRA/J version 23.0

例数(%)

アカラブルチニブ(カプセル剤)群において2例以上発現した有害事象一覧

	全Grade	Grade 3以上
上気道感染	20(16.1)	2(1.6)
副鼻腔炎	16(12.9)	0
肺炎	15(12.1)	9(7.3)
気管支炎	11(8.9)	0
帯状疱疹	10(8.1)	1(0.8)
上咽頭炎	10(8.1)	0
インフルエンザ	7(5.6)	0
下気道感染	6(4.8)	1(0.8)
鼻炎	6(4.8)	0
尿路感染	5(4.0)	3(2.4)
気道感染	4(3.2)	1(0.8)
結膜炎	4(3.2)	0
喉頭炎	4(3.2)	0
咽頭炎	3(2.4)	1(0.8)
限局性感染	3(2.4)	0
口腔ヘルペス	3(2.4)	0
敗血症	2(1.6)	2(1.6)
蜂巣炎	2(1.6)	0
慢性副鼻腔炎	2(1.6)	0
眼感染	2(1.6)	0
真菌感染	2(1.6)	0
気管炎	2(1.6)	0
ウイルス感染	2(1.6)	0

MedDRA/J version 23.0

例数(%)

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)において、死亡に至った感染症関連事象の報告はありませんでした。

国際共同臨床試験

感染症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 器官別大分類の「感染症および寄生虫症」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	232 (78.1)	122 (41.1)	211 (71.0)	101 (34.0)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

アカラブルチニブ (カプセル剤) +ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群において5例以上発現した有害事象一覧

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
COVID-19	91 (30.6)	26 (8.8)	62 (20.9)	21 (7.1)
上気道感染	54 (18.2)	1 (0.3)	44 (14.8)	0
肺炎	48 (16.2)	26 (8.8)	39 (13.1)	19 (6.4)
COVID-19肺炎	47 (15.8)	40 (13.5)	37 (12.5)	31 (10.4)
尿路感染	33 (11.1)	5 (1.7)	32 (10.8)	5 (1.7)
帯状疱疹	29 (9.8)	3 (1.0)	15 (5.1)	2 (0.7)
気管支炎	19 (6.4)	1 (0.3)	18 (6.1)	1 (0.3)
副鼻腔炎	19 (6.4)	0	6 (2.0)	3 (1.0)
上咽頭炎	16 (5.4)	0	18 (6.1)	0
蜂巣炎	15 (5.1)	5 (1.7)	9 (3.0)	4 (1.3)
気道感染	15 (5.1)	3 (1.0)	14 (4.7)	1 (0.3)
敗血症	9 (3.0)	9 (3.0)	8 (2.7)	8 (2.7)
皮膚感染	9 (3.0)	0	4 (1.3)	0
インフルエンザ	8 (2.7)	1 (0.3)	4 (1.3)	0
口腔カンジダ症	8 (2.7)	0	2 (0.7)	0
下気道感染	7 (2.4)	2 (0.7)	2 (0.7)	0
毛包炎	7 (2.4)	0	2 (0.7)	0
膀胱炎	6 (2.0)	1 (0.3)	4 (1.3)	1 (0.3)
歯膿瘍	6 (2.0)	1 (0.3)	2 (0.7)	0
結膜炎	6 (2.0)	0	5 (1.7)	1 (0.3)
限局性感染	6 (2.0)	0	0	0

2. 注意を要する副作用とその対策

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
口腔ヘルペス	6(2.0)	0	7(2.4)	0
鼻炎	6(2.0)	0	10(3.4)	0
感染	5(1.7)	2(0.7)	1(0.3)	0
カンジダ感染	5(1.7)	0	2(0.7)	0
せつ	5(1.7)	0	0	0
COVID-19の疑い	5(1.7)	0	0	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った感染症関連事象として、COVID-19が8例(うち、アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係あり1例)、COVID-19肺炎が15例(因果関係あり1例)、肺炎が3例(因果関係あり2例)、敗血症が1例、急性COVID-19後症候群が1例、尿路性敗血症が1例、クロストリジウム・ディフィシレ大腸炎が1例(因果関係あり)及びサイトメガロウイルス性肺炎が1例(因果関係あり)報告されました。

プラセボ+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群からアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与へクロスオーバーした症例で、COVID-19肺炎が1例(アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)及び敗血症性ショックが1例(因果関係なし)報告されました。

国内臨床試験

感染症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 器官別大分類の「感染症および寄生虫症」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

CLL/SLL 再発又は難治性

CLL 未治療

	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	7(77.8)	1(11.1)	5(50.0)	0
上咽頭炎	3(33.3)	0	2(20.0)	0
結膜炎	2(22.2)	0	0	0
膀胱炎	2(22.2)	0	0	0
咽頭炎	2(22.2)	0	0	0
副鼻腔炎	2(22.2)	0	0	0
肺炎	1(11.1)	1(11.1)	0	0
細菌感染	1(11.1)	0	0	0
気管支炎	1(11.1)	0	0	0
慢性副鼻腔炎	1(11.1)	0	0	0
眼感染	1(11.1)	0	0	0
単純ヘルペス	1(11.1)	0	0	0
帯状疱疹	1(11.1)	0	0	0
歯周炎	1(11.1)	0	0	0
膿疱性皮疹	1(11.1)	0	0	0
憩室炎	0	0	1(10.0)	0
上気道感染	0	0	1(10.0)	0
尿路感染	0	0	1(10.0)	0

MedDRA/J version 24.0

例数(%)

■ 日和見感染症

水痘带状疱疹ウイルスによる感染症は、再発又は難治性CLL/SLL 1例(予防投与未実施例)に認められました。
サイトメガロウイルス、結核菌、ニューモシスチス・イロベチイによる感染症は認められませんでした。

■ B型肝炎ウイルスの再活性化

B型肝炎ウイルスによる感染症は認められませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
感染症関連事象	8 (61.5)	3 (23.1)
肺炎	4 (30.8)	3 (23.1)
上咽頭炎	4 (30.8)	0
気管支炎	2 (15.4)	0
結膜炎	2 (15.4)	0
帯状疱疹	2 (15.4)	0
医療機器関連敗血症	1 (7.7)	0
インフルエンザ	1 (7.7)	0
咽頭炎	1 (7.7)	0
気道感染	1 (7.7)	0
副鼻腔炎	1 (7.7)	0
足部白癬	1 (7.7)	0

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験(D8220C00001試験)において、死亡に至った感染症関連事象の報告はありませんでした。

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第III相試験(ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における感染症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第III相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=154)	3-＜6カ月 (N=151)	6-＜9カ月 (N=145)	9-＜12カ月 (N=142)	12-＜15カ月 (N=132)	15-＜18カ月 (N=91)	18-＜21カ月 (N=38)
感染症関連事象	46 (29.9)	14 (9.3)	10 (6.9)	8 (5.6)	5 (3.8)	1 (1.1)	3 (7.9)

例数 (%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群における感染症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=178)	3-＜6カ月 (N=178)	6-＜9カ月 (N=174)	9-＜12カ月 (N=171)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=167)	18-＜21カ月 (N=165)	21-＜24カ月 (N=164)	24カ月以降 (N=161)
感染症関連事象	45 (25.3)	26 (14.6)	18 (10.3)	11 (6.4)	7 (4.2)	5 (3.0)	2 (1.2)	3 (1.8)	6 (3.7)

例数 (%)

アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=179)	3-＜6カ月 (N=175)	6-＜9カ月 (N=171)	9-＜12カ月 (N=169)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=166)	18-＜21カ月 (N=164)	21-＜24カ月 (N=162)	24カ月以降 (N=156)
感染症関連事象	55 (30.7)	16 (9.1)	12 (7.0)	7 (4.1)	7 (4.2)	4 (2.4)	7 (4.3)	3 (1.9)	6 (3.8)

例数 (%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトフラクス併用投与群における感染症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトフラクス併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=291)	3-＜6カ月 (N=286)	6-＜9カ月 (N=279)	9-＜12カ月 (N=276)	12-＜15カ月 (N=267)	15-＜18カ月 (N=8)	18-＜21カ月 (N=1)	21-＜24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
感染症関連事象	58 (19.9)	24 (8.4)	32 (11.5)	24 (8.7)	10 (3.7)	0	0	0	0

例数 (%)

2. 注意を要する副作用とその対策

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における感染症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
感染症関連事象	43(34.7)	9(8.3)	8(8.8)	5(6.5)	2(2.7)	6(8.6)	1(1.7)	0	10(18.5)

例数(%)

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群における感染症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
感染症関連事象	70(23.6)	42(15.2)	33(13.0)	25(10.5)	16(7.1)	7(3.3)	8(4.1)	4(2.1)	27(14.9)

例数(%)

対処法

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

➡「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.5)をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

➡「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.8～9)をご参照ください。

参考 感染症に対する臨床試験時の対応

死亡例を含む重篤な感染症(細菌感染、ウイルス感染及び真菌感染)がアカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で認められています。

モニタリング 感染の徴候や症状についてモニタリングを行い、医学的に適切に治療することと規定されていました¹⁾⁻⁶⁾。

予防措置 感染の危険性がある患者に対し、実施医療機関の標準手順等に従った感染の予防の対応が可能とされていました^{1), 2), 6)}。

肺炎のリスクのある患者(例:再発性肺炎の既往がある患者)では、感染予防を検討すべきであり、アカラブルチニブ(カプセル剤)投与前にニューモシスチス感染症に対する抗生物質予防薬(スルファメトキサゾール・トリメトプリム、ジアフェニルスルホン(本邦では保険適用外)、エアロゾル化されたペンタミジン、又はアトバコン)を投与することが可能とされていました¹⁾。このようなサポートは、他の細菌感染のリスクを減らすという利点もあります⁷⁾。また、免疫グロブリンの静脈内投与(IVIG)による予防は、免疫グロブリンのレベルが低い症例に適している可能性があります⁸⁾。

1) 海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)実施計画書

2) 国内第Ⅰ相試験(D8220C00001試験)実施計画書

3) 海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)実施計画書

4) 海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)実施計画書

5) 国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)実施計画書

6) 海外第Ⅲ相試験(AMPLIFY試験)実施計画書

7) Stern A. et al.: Cochrane Database Syst Rev. 2014; 2014(10): CD005590.

8) Raanani P. et al.: Leuk Lymphoma. 2009; 50(5): 764-772.

参考 B型肝炎ウイルス(HBV)の再活性化について

アカラブルチニブ(カプセル剤)投与例においてB型肝炎ウイルス(HBV)の再活性化が認められています。

B型肝炎ウイルス(HBV)のモニタリング及び管理については、日本肝臓学会から発出されている「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」を参照してください。

参考 呼吸器領域におけるアスペルギルス症に対する診療指針について

アカラブルチニブ(カプセル剤)投与例において、アスペルギルス症が認められています。呼吸器領域におけるアスペルギルス症に対する診療指針を参照してください。

参考 進行性多巣性白質脳症(PML)に対する臨床試験時の対応

PMLの徴候や症状として認知や行動の変化、言語障害、視覚障害、感覚障害、脱力や協調運動及び歩行困難があらわれる可能性があります。

対処法 PMLが疑われた場合、PMLの診断が除外されるまでアカラブルチニブ(カプセル剤)の投与を中断することと規定されていました。

診断は以下の内容を含めて行い、PMLの診断が確認された場合、アカラブルチニブ(カプセル剤)の投与を中止することと規定されていました。

a. 神経専門家への相談

b. 脳MRI

c. 脳脊髄液でのJCウイルスDNA PCR検査

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験、ELEVATE-TN試験、AMPLIFY試験)、海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)、国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)及び国内第Ⅰ相試験(D8220C00001試験)実施計画書

参考 進行性多巣性白質脳症(PML)に関する診療ガイドライン

本剤の治療期間中及び治療終了後は患者の状態を十分に観察し、臨床症候、頭部MRI/CT、脳脊髄液(cerebrospinal fluid: CSF)のJCウイルス(JC virus: JCV)DNAの検出、病理所見及び除外診断を行うとともに、投与を中止し、適切な処置を行ってください。

参考情報: 進行性多巣性白質脳症(Progressive multifocal leukoencephalopathy: PML)診療ガイドライン2023
[厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班]

2. 注意を要する副作用とその対策

3) 骨髄抑制

- 貧血、好中球減少症、白血球減少症、血小板減少症等の骨髄抑制があらわれることがあります。
- 早期に血球減少を検出するため、定期的に血液検査を行ってください。

発現状況

海外臨床試験

血球減少症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「造血障害による赤血球減少症」、「造血障害による白血球減少症」及び「造血障害による血小板減少症」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	23(14.9)	18(11.7)	14(9.2)	11(7.2)
貧血	23(14.9)	18(11.7)	14(9.2)	11(7.2)
白血球減少症関連事象	33(21.4)	27(17.5)	76(49.7)	70(45.8)
好中球減少症	30(19.5)	24(15.6)	65(42.5)	58(37.9)
好中球数減少	3(1.9)	2(1.3)	10(6.5)	10(6.5)
発熱性好中球減少症	1(0.6)	1(0.6)	4(2.6)	4(2.6)
顆粒球減少症	0	0	3(2.0)	3(2.0)
白血球減少症	0	0	1(0.7)	0
リンパ球減少症	0	0	1(0.7)	0
血小板減少症関連事象	22(14.3)	7(4.5)	26(17.0)	10(6.5)
血小板減少症	17(11.0)	6(3.9)	21(13.7)	10(6.5)
血小板数減少	6(3.9)	1(0.6)	6(3.9)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)群で死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	23(12.9)	11(6.2)	28(15.6)	12(6.7)	21(12.4)	12(7.1)
貧血	21(11.8)	10(5.6)	25(14.0)	12(6.7)	20(11.8)	12(7.1)
ヘモグロビン減少	2(1.1)	1(0.6)	2(1.1)	0	2(1.2)	0
大球性貧血	0	0	1(0.6)	0	0	0
小球性貧血	0	0	1(0.6)	0	0	0
ヘマトクリット減少	0	0	0	0	1(0.6)	0
白血球減少症関連事象	59(33.1)	56(31.5)	21(11.7)	19(10.6)	84(49.7)	78(46.2)
好中球減少症	56(31.5)	53(29.8)	19(10.6)	17(9.5)	76(45.0)	70(41.4)
発熱性好中球減少症	3(1.7)	3(1.7)	2(1.1)	2(1.1)	9(5.3)	9(5.3)
好中球数減少	3(1.7)	2(1.1)	0	0	5(3.0)	5(3.0)
白血球減少症	1(0.6)	1(0.6)	0	0	4(2.4)	3(1.8)
好中球減少性敗血症	1(0.6)	1(0.6)	0	0	0	0
血小板減少症関連事象	27(15.2)	16(9.0)	17(9.5)	6(3.4)	26(15.4)	22(13.0)
血小板減少症	23(12.9)	15(8.4)	13(7.3)	5(2.8)	24(14.2)	20(11.8)
血小板数減少	5(2.8)	1(0.6)	4(2.2)	1(0.6)	4(2.4)	2(1.2)

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*: chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群で死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群では、アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係が否定できない死亡に至った白血球減少症関連事象として、発熱性好中球減少症が1例報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	20(6.9)	11(3.8)	13(4.6)	6(2.1)	25(9.7)	17(6.6)
貧血	20(6.9)	11(3.8)	13(4.6)	6(2.1)	25(9.7)	17(6.6)
白血球減少症関連事象	109(37.5)	95(32.6)	147(51.8)	135(47.5)	140(54.1)	120(46.3)
好中球減少症	90(30.9)	78(26.8)	114(40.1)	100(35.2)	99(38.2)	84(32.4)
好中球数減少	18(6.2)	16(5.5)	29(10.2)	29(10.2)	27(10.4)	22(8.5)
白血球数減少	7(2.4)	4(1.4)	2(0.7)	0	9(3.5)	4(1.5)
発熱性好中球減少症	5(1.7)	5(1.7)	7(2.5)	7(2.5)	24(9.3)	24(9.3)
白血球減少症	5(1.7)	3(1.0)	3(1.1)	1(0.4)	11(4.2)	7(2.7)
リンパ球数減少	1(0.3)	1(0.3)	3(1.1)	0	2(0.8)	2(0.8)
顆粒球減少症	0	0	5(1.8)	5(1.8)	4(1.5)	4(1.5)
リンパ球減少症	0	0	2(0.7)	1(0.4)	0	0
血小板減少症関連事象	17(5.8)	6(2.1)	35(12.3)	26(9.2)	39(15.1)	28(10.8)
血小板減少症	13(4.5)	4(1.4)	24(8.5)	17(6.0)	33(12.7)	22(8.5)
血小板数減少	4(1.4)	2(0.7)	12(4.2)	9(3.2)	8(3.1)	7(2.7)

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群で死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	18(14.5)	14(11.3)
貧血	18(14.5)	14(11.3)
白血球減少症関連事象	18(14.5)	18(14.5)
好中球減少症	14(11.3)	14(11.3)
好中球数減少	4(3.2)	4(3.2)
発熱性好中球減少症	1(0.8)	1(0.8)
白血球減少症	1(0.8)	1(0.8)
血小板減少症関連事象	9(7.3)	6(4.8)
血小板減少症	7(5.6)	5(4.0)
血小板数減少	3(2.4)	1(0.8)

MedDRA/J version 23.0

例数(%)

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)において、死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

国際共同臨床試験

血球減少症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「造血障害による赤血球減少症」、「造血障害による白血球減少症」及び「造血障害による血小板減少症」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	72 (24.2)	28 (9.4)	62 (20.9)	30 (10.1)
貧血	68 (22.9)	28 (9.4)	60 (20.2)	30 (10.1)
ヘマトクリット減少	2 (0.7)	0	0	0
ヘモグロビン減少	2 (0.7)	0	2 (0.7)	0
大球性貧血	1 (0.3)	0	1 (0.3)	0
正色素性正球性貧血	1 (0.3)	0	0	0
白血球減少症関連事象	175 (58.9)	158 (53.2)	182 (61.3)	162 (54.5)
好中球減少症	119 (40.1)	105 (35.4)	123 (41.4)	110 (37.0)
好中球数減少	53 (17.8)	46 (15.5)	46 (15.5)	30 (10.1)
白血球数減少	41 (13.8)	30 (10.1)	31 (10.4)	11 (3.7)
白血球減少症	23 (7.7)	17 (5.7)	23 (7.7)	18 (6.1)
リンパ球数減少	22 (7.4)	19 (6.4)	29 (9.8)	29 (9.8)
発熱性好中球減少症	16 (5.4)	15 (5.1)	7 (2.4)	7 (2.4)
リンパ球減少症	14 (4.7)	8 (2.7)	19 (6.4)	16 (5.4)
顆粒球減少症	2 (0.7)	2 (0.7)	1 (0.3)	1 (0.3)
好中球減少性敗血症	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
CD19リンパ球減少	1 (0.3)	0	1 (0.3)	0
単球数減少	1 (0.3)	0	2 (0.7)	0
無顆粒球症	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
好酸球数減少	0	0	1 (0.3)	0
顆粒球数減少	0	0	1 (0.3)	0
Tリンパ球数減少	0	0	1 (0.3)	0
血小板減少症関連事象	68 (22.9)	29 (9.8)	61 (20.5)	24 (8.1)
血小板減少症	38 (12.8)	18 (6.1)	34 (11.4)	16 (5.4)
血小板数減少	30 (10.1)	11 (3.7)	30 (10.1)	8 (2.7)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)において、アカラブルチニブ (カプセル剤) +ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

国内臨床試験

血球減少症関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「造血障害による赤血球減少症」、「造血障害による白血球減少症」及び「造血障害による血小板減少症」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

CLL/SLL 再発又は難治性

CLL 未治療

	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (30.0)	2 (20.0)
貧血	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (30.0)	2 (20.0)
白血球減少症関連事象	3 (33.3)	3 (33.3)	3 (30.0)	1 (10.0)
好中球減少症	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (10.0)	1 (10.0)
好中球数減少	1 (11.1)	1 (11.1)	2 (20.0)	0
白血球数減少	0	0	1 (10.0)	0
血小板減少症関連事象	1 (11.1)	0	3 (30.0)	1 (10.0)
血小板数減少	1 (11.1)	0	2 (20.0)	1 (10.0)
血小板減少症	0	0	1 (10.0)	0

MedDRA/J version 24.0

例数 (%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート：アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
貧血関連事象	2 (15.4)	1 (7.7)
貧血	2 (15.4)	1 (7.7)
白血球減少症関連事象	6 (46.2)	4 (30.8)
リンパ球数減少	2 (15.4)	2 (15.4)
リンパ球減少症	2 (15.4)	2 (15.4)
好中球数減少	2 (15.4)	1 (7.7)
白血球数減少	2 (15.4)	1 (7.7)
白血球減少症	1 (7.7)	1 (7.7)
好中球減少症	1 (7.7)	1 (7.7)
血小板減少症関連事象	3 (23.1)	2 (15.4)
血小板数減少	2 (15.4)	1 (7.7)
血小板減少症	1 (7.7)	1 (7.7)

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、死亡に至った貧血関連事象、白血球減少症関連事象及び血小板減少症関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における血球減少症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=154)	3-＜6カ月 (N=151)	6-＜9カ月 (N=145)	9-＜12カ月 (N=142)	12-＜15カ月 (N=132)	15-＜18カ月 (N=91)	18-＜21カ月 (N=38)
貧血関連事象	19(12.3)	1(0.7)	0	2(1.4)	0	1(1.1)	0
白血球減少症関連事象	14(9.1)	9(6.0)	5(3.4)	1(0.7)	3(2.3)	1(1.1)	0
血小板減少症関連事象	16(10.4)	3(2.0)	0	2(1.4)	1(0.8)	0	0

例数(%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群における血球減少症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=178)	3-＜6カ月 (N=178)	6-＜9カ月 (N=174)	9-＜12カ月 (N=171)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=167)	18-＜21カ月 (N=165)	21-＜24カ月 (N=164)	24カ月以降 (N=161)
貧血関連事象	16(9.0)	0	0	1(0.6)	1(0.6)	0	2(1.2)	1(0.6)	2(1.2)
白血球減少症関連事象	32(18.0)	13(7.3)	3(1.7)	3(1.8)	1(0.6)	3(1.8)	1(0.6)	1(0.6)	2(1.2)
血小板減少症関連事象	19(10.7)	6(3.4)	1(0.6)	0	0	0	0	0	1(0.6)

例数(%)

アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=179)	3-＜6カ月 (N=175)	6-＜9カ月 (N=171)	9-＜12カ月 (N=169)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=166)	18-＜21カ月 (N=164)	21-＜24カ月 (N=162)	24カ月以降 (N=156)
貧血関連事象	20(11.2)	3(1.7)	0	1(0.6)	0	1(0.6)	2(1.2)	1(0.6)	0
白血球減少症関連事象	11(6.1)	3(1.7)	0	2(1.2)	1(0.6)	1(0.6)	2(1.2)	0	1(0.6)
血小板減少症関連事象	9(5.0)	2(1.1)	1(0.6)	2(1.2)	0	1(0.6)	0	0	2(1.3)

例数(%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群における血球減少症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=291)	3-＜6カ月 (N=286)	6-＜9カ月 (N=279)	9-＜12カ月 (N=276)	12-＜15カ月 (N=267)	15-＜18カ月 (N=8)	18-＜21カ月 (N=1)	21-＜24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
貧血関連事象	17 (5.8)	1 (0.3)	0	2 (0.7)	0	0	0	0	0
白血球減少症関連事象	37 (12.7)	47 (16.4)	12 (4.3)	12 (4.3)	1 (0.4)	0	0	0	0
血小板減少症関連事象	3 (1.0)	8 (2.8)	3 (1.1)	3 (1.1)	0	0	0	0	0

例数 (%)

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における血球減少症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
貧血関連事象	12 (9.7)	2 (1.9)	2 (2.2)	0	0	0	0	1 (1.8)	1 (1.9)
白血球減少症関連事象	7 (5.6)	4 (3.7)	2 (2.2)	3 (3.9)	0	0	0	1 (1.8)	1 (1.9)
血小板減少症関連事象	4 (3.2)	1 (0.9)	1 (1.1)	1 (1.3)	0	0	0	0	2 (3.7)

例数 (%)

2. 注意を要する副作用とその対策

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン + リツキシマブ併用投与群における血球減少症関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
貧血関連事象	39(13.1)	13(4.7)	6(2.4)	2(0.8)	2(0.9)	2(0.9)	1(0.5)	0	7(3.9)
白血球減少症関連事象	103(34.7)	45(16.2)	13(5.1)	6(2.5)	2(0.9)	4(1.9)	0	0	2(1.1)
血小板減少症関連事象	48(16.2)	14(5.1)	3(1.2)	1(0.4)	0	0	0	0	2(1.1)

例数(%)

対処法

〈慢性リンパ性白血病 (小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応 (p.5) をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応 (p.8～9) をご参照ください。

参考 発熱性好中球減少症 (FN) に関する診療ガイドライン

アカラブルチニブ (カプセル剤) 投与例において、発熱性好中球減少症 (FN) が認められています。

FN患者に対する初期治療 (経験的治療) やFN患者に対する経験的治療開始3～4日後の再評価については、日本臨床腫瘍学会による「発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン (改訂第3版)」を参照してください。

日本臨床腫瘍学会編：発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン (改訂第3版)，2024南江堂

4) 不整脈

- 心房細動・心房粗動等の重篤な不整脈があらわれることがあります。
- 早期に異常を検出するため、本剤投与後は定期的に心機能検査（十二誘導心電図検査等）を行ってください。

発現状況

海外臨床試験

不整脈関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J HLGT(高位グループ用語)「不整脈」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	12(7.8)	3(1.9)	6(3.9)	2(1.3)
心房細動	8(5.2)	2(1.3)	4(2.6)	1(0.7)
上室性期外収縮	2(1.3)	0	0	0
心停止	1(0.6)	1(0.6)	0	0
不整脈	1(0.6)	0	0	0
徐脈	1(0.6)	0	0	0
洞性徐脈	1(0.6)	0	0	0
頻脈	1(0.6)	0	0	0
心房粗動	0	0	1(0.7)	1(0.7)
洞性不整脈	0	0	1(0.7)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)群で死亡に至った不整脈関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	13 (7.3)	2 (1.1)	10 (5.6)	0	8 (4.7)	2 (1.2)
心房細動	5 (2.8)	1 (0.6)	6 (3.4)	0	1 (0.6)	0
頻脈	3 (1.7)	0	1 (0.6)	0	3 (1.8)	0
完全房室ブロック	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0	0	0
心房粗動	1 (0.6)	0	1 (0.6)	0	0	0
洞性頻脈	1 (0.6)	0	0	0	0	0
上室性頻脈	1 (0.6)	0	1 (0.6)	0	0	0
心室性期外収縮	1 (0.6)	0	1 (0.6)	0	0	0
不整脈	0	0	1 (0.6)	0	1 (0.6)	0
徐脈	0	0	1 (0.6)	0	2 (1.2)	1 (0.6)
期外収縮	0	0	1 (0.6)	0	0	0
心停止	0	0	0	0	1 (0.6)	1 (0.6)
上室性不整脈	0	0	0	0	1 (0.6)	0
右脚ブロック	0	0	0	0	1 (0.6)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*: chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群及びアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で死亡に至った不整脈関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	18 (6.2)	4 (1.4)	17 (6.0)	4 (1.4)	7 (2.7)	3 (1.2)
頻脈	5 (1.7)	0	2 (0.7)	0	1 (0.4)	0
上室性頻脈	3 (1.0)	1 (0.3)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	0
心房細動	2 (0.7)	1 (0.3)	6 (2.1)	2 (0.7)	2 (0.8)	2 (0.8)
洞性頻脈	2 (0.7)	0	3 (1.1)	0	1 (0.4)	0
第二度房室ブロック	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0	1 (0.4)	0
心停止	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)
期外収縮	1 (0.3)	0	0	0	1 (0.4)	0
洞性不整脈	1 (0.3)	0	1 (0.4)	0	0	0
心室性期外収縮	1 (0.3)	0	2 (0.7)	0	0	0
心室性頻脈	1 (0.3)	0	1 (0.4)	0	0	0
不整脈	0	0	0	0	1 (0.4)	0
徐脈	0	0	1 (0.4)	0	0	0
頻脈性不整脈	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群で死亡に至った不整脈関連事象として、心停止が1例 (アカラブルチニブ (カプセル剤) との因果関係なし) 報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラプルチニブ(カプセル剤)群 (N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	9 (7.3)	2 (1.6)
心房細動	3 (2.4)	0
頻脈	2 (1.6)	0
完全房室ブロック	1 (0.8)	1 (0.8)
心肺停止	1 (0.8)	1 (0.8)
洞停止	1 (0.8)	1 (0.8)
徐脈	1 (0.8)	0
期外収縮	1 (0.8)	0
洞性頻脈	1 (0.8)	0
心室性期外収縮	1 (0.8)	0

MedDRA/J version 23.0

例数 (%)

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)において、死亡に至った不整脈関連事象の報告はありませんでした。

国際共同臨床試験

不整脈関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J HLGT (高位グループ用語)「不整脈」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	46(15.5)	15(5.1)	39(13.1)	10(3.4)
心房細動	18(6.1)	11(3.7)	13(4.4)	5(1.7)
頻脈	6(2.0)	1(0.3)	7(2.4)	0
上室性期外収縮	5(1.7)	0	0	0
徐脈	4(1.3)	2(0.7)	5(1.7)	1(0.3)
心室性期外収縮	4(1.3)	0	4(1.3)	0
心房粗動	3(1.0)	1(0.3)	0	0
不整脈	3(1.0)	0	4(1.3)	0
洞性頻脈	3(1.0)	0	0	0
心房頻脈	2(0.7)	0	0	0
上室性頻脈	2(0.7)	0	2(0.7)	2(0.7)
心室性不整脈	2(0.7)	0	2(0.7)	0
右脚ブロック	1(0.3)	0	0	0
期外収縮	1(0.3)	0	0	0
心室性頻脈	1(0.3)	0	1(0.3)	0
洞性徐脈	0	0	3(1.0)	0
アダムス・ストークス症候群	0	0	1(0.3)	1(0.3)
心停止	0	0	1(0.3)	1(0.3)
洞性不整脈	0	0	1(0.3)	0
頻脈性不整脈	0	0	1(0.3)	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った不整脈関連事象の報告はありませんでした。

プラセボ+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群からアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与にクロスオーバーした症例で、心停止が1例(アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

国内臨床試験

不整脈関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J HLTG (高位グループ用語)「不整脈」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

	再発又は難治性 CLL/SLL		未治療 CLL	
	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	0	0	1 (10.0)	0
心房細動	0	0	1 (10.0)	0

MedDRA/J version 24.0

例数 (%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
不整脈関連事象	1 (7.7)	0
心房細動	1 (7.7)	0

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、死亡に至った不整脈関連事象の報告はありませんでした。

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における不整脈関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)

初回発現時期	再発又は難治性 CLL						
	0-<3カ月 (N=154)	3-<6カ月 (N=151)	6-<9カ月 (N=145)	9-<12カ月 (N=142)	12-<15カ月 (N=132)	15-<18カ月 (N=91)	18-<21カ月 (N=38)
不整脈関連事象	4 (2.6)	1 (0.7)	2 (1.4)	0	3 (2.3)	2 (2.2)	0

例数 (%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群における不整脈関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=291)	3-＜6カ月 (N=286)	6-＜9カ月 (N=279)	9-＜12カ月 (N=276)	12-＜15カ月 (N=267)	15-＜18カ月 (N=8)	18-＜21カ月 (N=1)	21-＜24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
不整脈関連事象	7 (2.4)	2 (0.7)	2 (0.7)	5 (1.8)	2 (0.7)	0	0	0	0

例数 (%)

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における不整脈関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
不整脈関連事象	0	1 (0.9)	3 (3.3)	0	0	1 (1.4)	0	0	4 (7.4)

例数 (%)

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン + リツキシマブ併用投与群における不整脈関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
不整脈関連事象	18 (6.1)	4 (1.4)	4 (1.6)	3 (1.3)	0	4 (1.9)	1 (0.5)	1 (0.5)	11 (6.1)

例数 (%)

2. 注意を要する副作用とその対策

対処法

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.5)をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.8～9)をご参照ください。

参考 臨床試験時の対応

不整脈がアカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で認められており、特に心血管リスク因子となる高血圧、糖尿病、急性感染症の併存や心房細動の既往を有する患者において認められています。

モニタリング・対処法 心房細動及び心房粗動の徴候(動悸、浮動性めまい、失神、胸痛、呼吸困難等)をモニターし、適宜心電図測定を行うこと^{1), 4), 5), 6)}、また、心房細動が認められた患者は施設内ガイドラインに従い、臨床的必要性に応じて管理すること¹⁾⁻⁶⁾(支持療法¹⁾⁻⁵⁾及び診断的評価を実施^{1), 4), 5)}と規定されていました。

除外基準 重大な循環器疾患がある患者は、アカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で除外されていました¹⁾⁻⁶⁾。

→「3.臨床試験における主な選択・除外基準」の主な除外基準(p.74～75、77～78)をご参照ください。

1) 国内第I相試験(D8220C00001試験)実施計画書

2) 海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)実施計画書

3) 海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)実施計画書

4) 海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)実施計画書

5) 国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)実施計画書

6) 海外第Ⅲ相試験(AMPLIFY試験)実施計画書

5) 虚血性心疾患

- 急性冠動脈症候群等の重篤な虚血性心疾患があらわれることがあります。
- 早期に異常を検出するため、本剤投与後は定期的に心機能検査（十二誘導心電図検査等）を行ってください。

発現状況

海外臨床試験

虚血性心疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「虚血性心疾患(狭域)」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.6)	3 (2.0)
急性冠動脈症候群	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0
不安定狭心症	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0
急性心筋梗塞	0	0	2 (1.3)	2 (1.3)
心筋梗塞	0	0	2 (1.3)	2 (1.3)
狭心症	0	0	2 (1.3)	1 (0.7)

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)群で死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	8 (4.5)	4 (2.2)	10 (5.6)	4 (2.2)	2 (1.2)	0
狭心症	5 (2.8)	1 (0.6)	4 (2.2)	0	1 (0.6)	0
心筋虚血	2 (1.1)	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0	0
急性冠動脈症候群	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0	0	0
急性心筋梗塞	1 (0.6)	1 (0.6)	3 (1.7)	3 (1.7)	1 (0.6)	0
不安定狭心症	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0	0	0
心筋梗塞	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	0	0
冠動脈硬化症	0	0	1 (0.6)	0	0	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群及びアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

オビヌツズマブ+chlorambucil*群からアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群へクロスオーバーした症例で、死亡に至った急性心筋梗塞が1例(アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	3 (1.0)	0	8 (2.8)	3 (1.1)	1 (0.4)	0
狭心症	3 (1.0)	0	5 (1.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	0
急性冠動脈症候群	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0
急性心筋梗塞	0	0	2 (0.7)	1 (0.4)	0	0
冠動脈疾患	0	0	1 (0.4)	0	0	0
心筋虚血	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群で死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	4 (3.2)	3 (2.4)
急性冠動脈症候群	1 (0.8)	1 (0.8)
急性心筋梗塞	1 (0.8)	1 (0.8)
冠動脈疾患	1 (0.8)	1 (0.8)
狭心症	1 (0.8)	0

MedDRA/J version 23.0

例数 (%)

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)において、死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

国際共同臨床試験

虚血性心疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「虚血性心疾患 (狭域)」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	14 (4.7)	5 (1.7)	10 (3.4)	6 (2.0)
狭心症	6 (2.0)	0	4 (1.3)	1 (0.3)
心筋梗塞	4 (1.3)	2 (0.7)	2 (0.7)	2 (0.7)
急性心筋梗塞	3 (1.0)	3 (1.0)	3 (1.0)	3 (1.0)
冠動脈硬化症	1 (0.3)	0	0	0
冠動脈疾患	1 (0.3)	0	2 (0.7)	1 (0.3)
心筋虚血	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
周術期心筋梗塞	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)において、アカラブルチニブ (カプセル剤) +ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

国内臨床試験

虚血性心疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「虚血性心疾患(狭域)」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

	再発又は難治性 CLL/SLL		CLL 未治療	
	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	0	0	1 (10.0)	1 (10.0)
狭心症	0	0	1 (10.0)	1 (10.0)

MedDRA/J version 24.0

例数(%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
虚血性心疾患関連事象	0	0

MedDRA/J version 25.0

例数(%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、死亡に至った虚血性心疾患関連事象の報告はありませんでした。

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における虚血性心疾患関連事象の初回発現時期は2日でした。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群における虚血性心疾患関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療(固定期間投与)

アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群

初回発現時期	0-<3カ月 (N=291)	3-<6カ月 (N=286)	6-<9カ月 (N=279)	9-<12カ月 (N=276)	12-<15カ月 (N=267)	15-<18カ月 (N=8)	18-<21カ月 (N=1)	21-<24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
虚血性心疾患 関連事象	1 (0.3)	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0	0	0	0

例数(%)

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における虚血性心疾患関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
虚血性心疾患 関連事象	2(1.6)	1(0.9)	0	1(1.3)	0	0	0	0	0

例数(%)

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群における虚血性心疾患関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
虚血性心疾患 関連事象	6(2.0)	1(0.4)	0	0	0	0	1(0.5)	2(1.0)	4(2.2)

例数(%)

対処法

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.5)をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.8～9)をご参照ください。

参考 臨床試験時の対応

除外基準 重大な循環器疾患がある患者は、アカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で除外されていました。

→「3.臨床試験における主な選択・除外基準」の主な除外基準(p.74～75、77～78)をご参照ください。

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験、ELEVATE-TN試験、AMPLIFY試験)、海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)、国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)及び国内第Ⅰ相試験(D8220C00001試験)実施計画書

2. 注意を要する副作用とその対策

6) 腫瘍崩壊症候群

- 腫瘍崩壊症候群があらわれることがあります。
- 早期に異常を検出するため、本剤投与後は定期的に血清中電解質濃度及び腎機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察してください。
- 異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置（生理食塩液、高尿酸血症治療剤の投与等）を行ってください。

発現状況

海外臨床試験

腫瘍崩壊症候群*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 基本語「腫瘍崩壊症候群」

海外第Ⅲ相試験（ASCEND試験）

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ（カプセル剤）群（N=154）		対照群*（N=153）	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.7)	1 (0.7)

MedDRA/J version 21.1

例数 (%)

*：試験担当医師が選択した化学療法（idelalisib（本邦未承認）+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR]）

海外第Ⅲ相試験（ASCEND試験）において、アカラブルチニブ（カプセル剤）群で死亡に至った腫瘍崩壊症候群の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験（ELEVATE-TN試験）

CLL 未治療

	アカラブルチニブ（カプセル剤）+オビヌツズマブ併用投与群（N=178）		アカラブルチニブ（カプセル剤）単独投与群（N=179）		オビヌツズマブ+chlorambucil*群（N=169）	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	3 (1.7)	2 (1.1)	0	0	15 (8.9)	13 (7.7)

MedDRA/J version 21.1

例数 (%)

*：chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験（ELEVATE-TN試験）において、アカラブルチニブ（カプセル剤）+オビヌツズマブ併用投与群及びアカラブルチニブ（カプセル剤）単独投与群で死亡に至った腫瘍崩壊症候群の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.4)	1 (0.4)	8 (3.1)	8 (3.1)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群で死亡に至った腫瘍崩壊症候群の報告はありませんでした。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	3 (2.4)	3 (2.4)

MedDRA/J version 23.0

例数 (%)

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験) において、死亡に至った腫瘍崩壊症候群の報告はありませんでした。

国際共同臨床試験

腫瘍崩壊症候群*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 基本語「腫瘍崩壊症候群」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	4 (1.3)	4 (1.3)	6 (2.0)	6 (2.0)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った腫瘍崩壊症候群が1例 (アカラブルチニブ (カプセル剤) との因果関係なし) 報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

国内臨床試験

腫瘍崩壊症候群*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J 基本語「腫瘍崩壊症候群」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

	再発又は難治性 CLL/SLL		未治療 CLL	
	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	0	0	0	0

MedDRA/J version 24.0

例数 (%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
腫瘍崩壊症候群	1 (7.7)	1 (7.7)

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、死亡に至った腫瘍崩壊症候群の報告はありませんでした。

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における腫瘍崩壊症候群の初回発現時期は5日でした。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群における腫瘍崩壊症候群の初回発現時期は28日、29日、30日でした。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群における腫瘍崩壊症候群の初回発現時期は58日でした。

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における腫瘍崩壊症候群の初回発現時期は26日、110日、277日でした。

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)のアカラブルチニブ (カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群における腫瘍崩壊症候群の初回発現時期は2日2例、3日2例でした。

対処法

異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、適切な処置(生理食塩液、高尿酸血症治療剤の投与等)を行ってください。
また、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察してください。

〈慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫を含む)〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.5)をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応(p.8～9)をご参照ください。

参考 臨床試験時の対応

腫瘍崩壊症候群(TLS)がアカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で報告されています。

予防措置 TLSの危険性があると考えられる患者に対しては、治療を開始する前に^{注)}、実施医療機関の手順に従って適切な水分補給に加え、アロプリノール又はラスブリカーゼを投与すると規定されていました¹⁾⁻⁶⁾。

注) 海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)ではオビヌツズマブの投与前

- 1) 海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)実施計画書
- 2) 海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)実施計画書
- 3) 国内第Ⅰ相試験(D8220C00001試験)実施計画書
- 4) 海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)実施計画書
- 5) 国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)実施計画書
- 6) 海外第Ⅲ相試験(AMPLIFY試験)実施計画書

参考 予防法・治療法

腫瘍崩壊症候群に対する具体的な予防法・治療法は、重篤副作用疾患別対応マニュアルを参照してください。

水分負荷(補液)、利尿、アロプリノール(保険適用外)、フェブキシスタット(保険適用あり)、ラスブリカーゼの投与、高カリウム血症への対処、乳酸アシドーシスの早期診断、血液浄化療法

重篤副作用疾患別対応マニュアル 腫瘍崩壊症候群(平成23年3月(平成30年6月改定))

2. 注意を要する副作用とその対策

7) 間質性肺疾患

- 間質性肺疾患があらわれることがあります。
- 早期に異常を検出するため、本剤投与後は臨床症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認、胸部X線検査の実施等、観察を十分に行ってください。
- 異常が認められた場合には、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施し、呼吸器専門医と連携し適切な処置を行ってください。
- 間質性肺疾患が疑われた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行ってください。

発現状況

海外臨床試験

間質性肺疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「間質性肺疾患(狭域)」

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	3(1.9)	2(1.3)	8(5.2)	4(2.6)
肺臓炎	2(1.3)	2(1.3)	3(2.0)	2(1.3)
肺線維症	1(0.6)	0	1(0.7)	0
間質性肺疾患	0	0	3(2.0)	2(1.3)
細気管支炎	0	0	1(0.7)	0
肺浸潤	0	0	1(0.7)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：試験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)群で死亡に至った間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	1(0.6)	0	2(1.1)	0	1(0.6)	0
肺臓炎	1(0.6)	0	0	0	0	0
肺線維症	0	0	2(1.1)	0	0	0
間質性肺疾患	0	0	0	0	1(0.6)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群及びアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で死亡に至った間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療(固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	0	0	5 (1.8)	0	1 (0.4)	1 (0.4)
肺浸潤	0	0	1 (0.4)	0	0	0
肺臓炎	0	0	4 (1.4)	0	1 (0.4)	1 (0.4)

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ(遺伝子組換え)の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群で死亡に至った間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	3 (2.4)	1 (0.8)
間質性肺疾患	2 (1.6)	1 (0.8)
肺線維症	1 (0.8)	0

MedDRA/J version 23.0

例数 (%)

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)において、死亡に至った間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

国際共同臨床試験

間質性肺疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「間質性肺疾患(狭域)」

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	10(3.4)	2(0.7)	10(3.4)	4(1.3)
肺臓炎	7(2.4)	1(0.3)	4(1.3)	1(0.3)
肺浸潤	1(0.3)	1(0.3)	1(0.3)	1(0.3)
間質性肺疾患	1(0.3)	0	3(1.0)	2(0.7)
肺陰影	1(0.3)	0	1(0.3)	0
肺線維症	0	0	1(0.3)	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った間質性肺疾患関連事象は肺臓炎が1例(アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係あり)報告されました。

国内臨床試験

間質性肺疾患関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「間質性肺疾患(狭域)」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

CLL/SLL 再発又は難治性

CLL 未治療

	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	0	0	0	0

MedDRA/J version 24.0

例数(%)

MCL 再発又は難治性

	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ(カプセル剤)群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
間質性肺疾患関連事象	1(7.7)	0
間質性肺疾患	1(7.7)	0

MedDRA/J version 25.0

例数(%)

国内第I相試験(D8220C00001試験)において、死亡に至った間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における間質性肺疾患関連事象の初回発現時期は88日、312日、484日でした。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)の間質性肺疾患関連事象の初回発現時期は、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群で252日、アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で84日、159日でした。

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験(AMPLIFY試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群における間質性肺疾患関連事象の報告はありませんでした。

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群における間質性肺疾患関連事象の初回発現時期は57日、163日、516日でした。

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群における間質性肺疾患関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
間質性肺疾患 関連事象	1 (0.3)	3 (1.1)	1 (0.4)	0	0	1 (0.5)	1 (0.5)	0	3 (1.7)

例数(%)

2. 注意を要する副作用とその対策

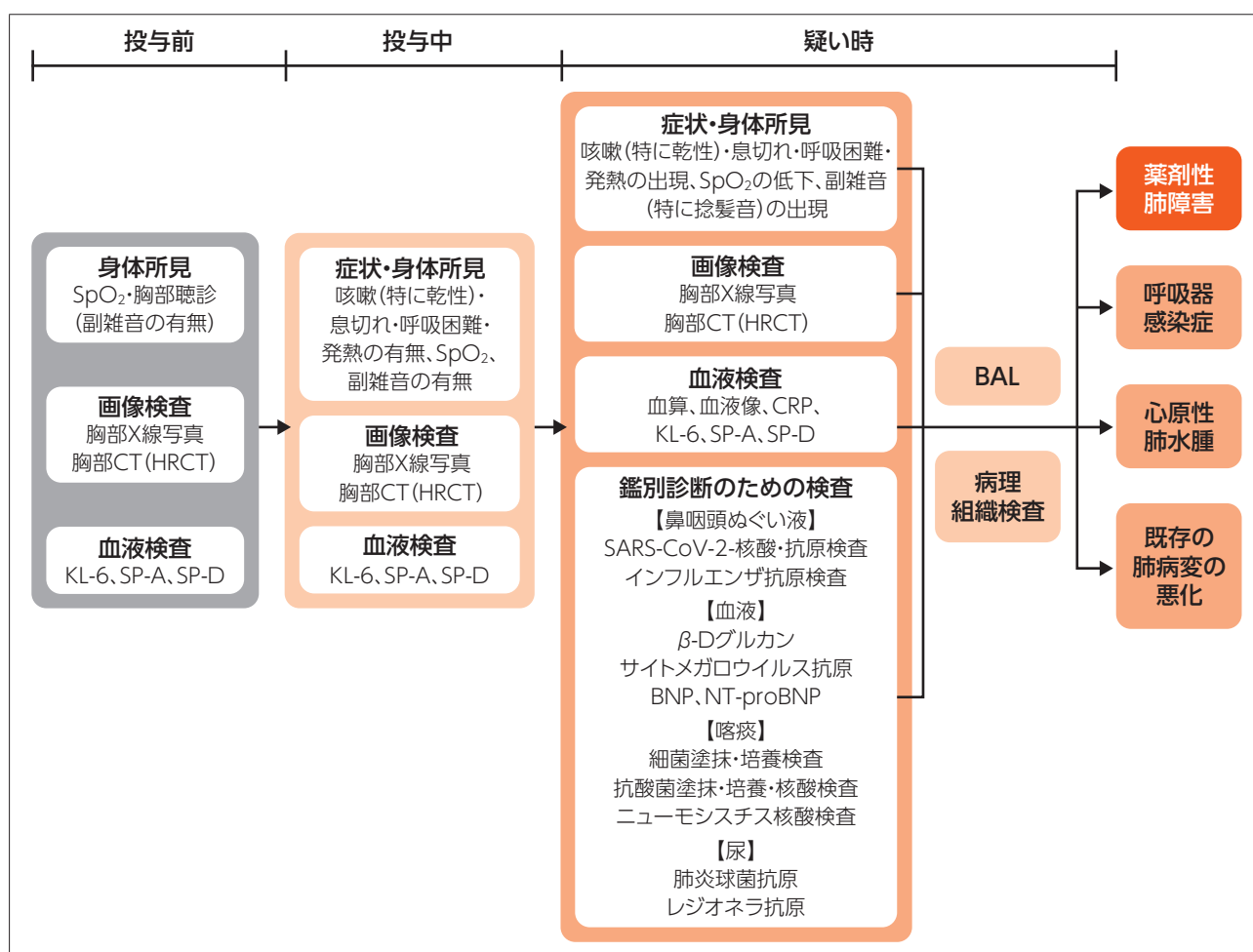
臨床症状及び検査所見

「薬剤性肺障害の臨床症状及び検査所見」及び「薬剤性肺障害の鑑別診断の流れ」をご参照ください。また、他の原因（疾患進行、併用薬、感染症等）を除外するため、原因特定のための十分な臨床評価を行ってください。

<薬剤性肺障害の臨床症状及び検査所見¹⁾より作成>

臨床症状	咳嗽（乾性咳嗽が多い）、労作性呼吸困難、喘鳴、血痰、SpO ₂ の低下、副雑音の聴取、発熱等
血液検査所見	好酸球数増加、CRP上昇、LDH上昇、KL-6上昇、SP-A上昇、SP-D上昇等
胸部CT所見	すりガラス陰影、浸潤影等

<薬剤性肺障害の鑑別診断の流れ¹⁾>



1) 日本呼吸器学会 薬剤性肺障害の診断・治療の手引き第3版作成委員会編：薬剤性肺障害の診断・治療の手引き[第3版]，一般社団法人日本呼吸器学会，2025

対処法

間質性肺疾患が疑われた場合には本剤の投与を中止してください。

また、呼吸器専門医と連携し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行ってください。

〈慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）〉〈再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応（p.5）をご参照ください。

〈未治療のマントル細胞リンパ腫〉

→「1.適正使用のお願い」の副作用発現時の対応（p.8～9）をご参照ください。

8) 二次性悪性腫瘍

- 本剤投与後に、皮膚及び皮膚以外の部位に二次性悪性腫瘍があらわれることがあります。
- 皮膚有棘細胞癌、基底細胞癌等の皮膚の二次性悪性腫瘍に関しては、皮膚の状態を観察する等、これらの発現に注意してください。

発現状況

海外臨床試験

二次性悪性腫瘍関連事象*は下表のとおり報告されています。

また、海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)のアカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)で報告された二次性悪性腫瘍関連事象18例のうち、因果関係が否定できないと判断された有害事象は2例(膀胱移行上皮癌、脳の悪性新生物 各1例)でした。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ(標準検索式)「悪性腫瘍」、「悪性リンパ腫(狭域)」、及び「骨髄異形成症候群(狭域)」

なお、当該カテゴリーからMedDRA/J HLT(高位用語)「悪性および詳細不明の皮膚新生物(黒色腫を除く)」を除外したサブカテゴリーでも集計を行った。

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=154)		対照群*(N=153)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	18(11.7)	6(3.9)	4(2.6)	1(0.7)
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	10(6.5)	5(3.2)	4(2.6)	1(0.7)
扁平上皮癌	3(1.9)	0	3(2.0)	1(0.7)
膀胱移行上皮癌	1(0.6)	1(0.6)	0	0
脳の悪性新生物	1(0.6)	1(0.6)	0	0
肺の悪性新生物	1(0.6)	1(0.6)	0	0
悪性黒色腫	1(0.6)	1(0.6)	0	0
神経内分泌癌	1(0.6)	1(0.6)	0	0
口唇扁平上皮癌	1(0.6)	0	0	0
遠隔転移を伴う扁平上皮癌	1(0.6)	0	0	0
前立腺癌	1(0.6)	0	0	0
エプスタイン・バーウイルス陽性 皮膚粘膜潰瘍	0	0	1(0.7)	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物	10(6.5)	1(0.6)	1(0.7)	0
皮膚有棘細胞癌	5(3.2)	1(0.6)	0	0
基底細胞癌	4(2.6)	0	1(0.7)	0
ボーエン病	1(0.6)	0	0	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：治験担当医師が選択した化学療法(idelalisib(本邦未承認)+リツキシマブ[IR]又はベンダムスチン+リツキシマブ[BR])

海外第Ⅲ相試験(ASCEND試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)群で死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象が2例(いずれもアカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=178)		アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群(N=179)		オビヌツズマブ+ chlorambucil*群(N=169)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	19(10.7)	7(3.9)	15(8.4)	2(1.1)	6(3.6)	3(1.8)
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	10(5.6)	6(3.4)	5(2.8)	2(1.1)	3(1.8)	2(1.2)
非小細胞肺癌	2(1.1)	2(1.1)	0	0	0	0
扁平上皮癌	2(1.1)	1(0.6)	0	0	0	0
乳癌	1(0.6)	1(0.6)	0	0	0	0
胃癌第4期	1(0.6)	1(0.6)	0	0	0	0
骨転移	1(0.6)	1(0.6)	0	0	0	0
基底扁平上皮癌	1(0.6)	0	0	0	0	0
膀胱移行上皮癌	1(0.6)	0	0	0	0	0
前立腺癌	1(0.6)	0	2(1.1)	0	1(0.6)	0
腎細胞癌	1(0.6)	0	0	0	0	0
神経膠芽細胞腫	0	0	1(0.6)	1(0.6)	0	0
移行上皮癌	0	0	1(0.6)	1(0.6)	0	0
表皮内悪性黒色腫	0	0	1(0.6)	0	0	0
急性骨髄単球性白血病	0	0	0	0	1(0.6)	1(0.6)
肺腺癌	0	0	0	0	1(0.6)	1(0.6)
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物	9(5.1)	1(0.6)	10(5.6)	0	4(2.4)	1(0.6)
基底細胞癌	7(3.9)	1(0.6)	8(4.5)	0	2(1.2)	0
皮膚癌	2(1.1)	0	0	0	0	0
皮膚有棘細胞癌	2(1.1)	0	2(1.1)	0	2(1.2)	1(0.6)
ボーエン病	0	0	1(0.6)	0	2(1.2)	0

MedDRA/J version 21.1

例数(%)

*：chlorambucilは本邦未承認

海外第Ⅲ相試験(ELEVATE-TN試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群で死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象が2例(いずれもアカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

アカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群では、死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象の報告はありませんでした。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療(固定期間投与)

	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)		アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ併用投与群* (N=284)		フルダラビン+ シクロホスファミド+ リツキシマブ又は ベンダムスチン+ リツキシマブ群 (N=259)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	15 (5.2)	5 (1.7)	12 (4.2)	5 (1.8)	2 (0.8)	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	8 (2.7)	5 (1.7)	7 (2.5)	4 (1.4)	1 (0.4)	0
悪性黒色腫	2 (0.7)	2 (0.7)	0	0	1 (0.4)	0
腎明細胞癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0	0	0
ヒュルトレ細胞癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0	0	0
非小細胞肺癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0	0	0
軟骨肉腫	1 (0.3)	0	0	0	0	0
扁平上皮癌	1 (0.3)	0	0	0	0	0
移行上皮癌	1 (0.3)	0	0	0	0	0
膀胱癌	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0
乳腺浸潤性小葉癌	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0
肺腺癌	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0
母斑様黒色腫	0	0	1 (0.4)	1 (0.4)	0	0
乳頭状腎細胞癌	0	0	1 (0.4)	0	0	0
前立腺癌	0	0	1 (0.4)	0	0	0
再発前立腺癌	0	0	1 (0.4)	0	0	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物	9 (3.1)	0	5 (1.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	0
基底細胞癌	6 (2.1)	0	4 (1.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	0
皮膚有棘細胞癌	4 (1.4)	0	1 (0.4)	0	0	0

MedDRA/J version 26.1

例数 (%)

*：本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ(遺伝子組換え)の併用について、有効性及び安全性は確立していません。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベネトクラクス併用投与群で死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象の報告はありませんでした。

2. 注意を要する副作用とその対策

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

	アカラブルチニブ(カプセル剤)群(N=124)	
	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	16(12.9)	7(5.6)
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	8(6.5)	6(4.8)
悪性黒色腫	2(1.6)	1(0.8)
びまん性大細胞型B細胞性 リンパ腫	1(0.8)	1(0.8)
ホジキン病	1(0.8)	1(0.8)
浸潤性乳管癌	1(0.8)	1(0.8)
髄膜転移	1(0.8)	1(0.8)
骨髄異形成症候群	1(0.8)	1(0.8)
非小細胞肺癌	1(0.8)	1(0.8)
扁平上皮癌	1(0.8)*	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物	9(7.3)	1(0.8)
基底細胞癌	6(4.8)	0
皮膚有棘細胞癌	3(2.4)	1(0.8)

MedDRA/J version 23.0

例数(%)

*：本症例は胸部の有棘細胞癌切除の既往があり、本事象は皮膚の二次性悪性腫瘍と考えられた。

海外第Ⅱ相試験(ACE-LY-004試験)において、死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象が1例(アカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係なし)報告されました。

なお、アカラブルチニブ(カプセル剤)の海外製造販売後において、二次性悪性腫瘍関連事象は、原疾患に関連する事象を含めて80件(慢性リンパ性白血病12件、マンツル細胞リンパ腫9件、リンパ腫7件、皮膚癌7件、再発マンツル細胞リンパ腫6件等)が報告されています(2020年3月時点)。

国際共同臨床試験

二次性悪性腫瘍関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「悪性腫瘍」、「悪性リンパ腫 (狭域)」及び「骨髓異形成症候群 (狭域)」

なお、当該カテゴリーからMedDRA/J HLT (高位用語)「悪性および詳細不明の皮膚新生物 (黒色腫を除く)」を除外したサブカテゴリーでも集計を行った。

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	53 (17.8)	22 (7.4)	43 (14.5)	22 (7.4)
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	29 (9.8)	16 (5.4)	32 (10.8)	20 (6.7)
扁平上皮癌	6 (2.0)	2 (0.7)	7 (2.4)	2 (0.7)
骨髓異形成症候群	2 (0.7)	2 (0.7)	0	0
結腸直腸腺癌	2 (0.7)	1 (0.3)	0	0
悪性黒色腫	2 (0.7)	1 (0.3)	3 (1.0)	3 (1.0)
胃腺癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
未分化大細胞型リンパ腫	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
結腸癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
子宮内膜癌	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)
消化管間質性腫瘍	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
腸管腺癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
悪性黒子	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)
遠隔転移を伴う悪性黒色腫	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
神経内分泌癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
非小細胞肺癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
腎癌	1 (0.3)	1 (0.3)	0	0
肺扁平上皮癌	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)
結腸腺癌	1 (0.3)	0	1 (0.3)	1 (0.3)
膀胱癌	1 (0.3)	0	0	0
乳癌	1 (0.3)	0	0	0
濾胞性リンパ腫	1 (0.3)	0	0	0
カボジ肉腫	1 (0.3)	0	0	0
表皮内悪性黒色腫	1 (0.3)	0	1 (0.3)	0
悪性新生物	1 (0.3)	0	0	0
眼黒色腫	1 (0.3)	0	0	0

2. 注意を要する副作用とその対策

	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群 (N=297)		プラセボ+ベンダムスチン+ リツキシマブ併用投与群 (N=297)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
前立腺癌	1 (0.3)	0	4 (1.3)	0
腎細胞癌	0	0	2 (0.7)	2 (0.7)
移行上皮癌	0	0	2 (0.7)	1 (0.3)
神経膠芽細胞腫	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
乳管内増殖性病変	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
浸潤性乳癌	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
肺腺癌	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
肺の悪性新生物	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
形質細胞性骨髄腫	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
直腸腺癌	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
甲状腺癌	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
尿道癌	0	0	1 (0.3)	1 (0.3)
腺扁平上皮癌	0	0	1 (0.3)	0
口唇扁平上皮癌	0	0	1 (0.3)	0
肺扁平上皮癌第0期	0	0	1 (0.3)	0
扁桃癌	0	0	1 (0.3)	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物	33 (11.1)	6 (2.0)	21 (7.1)	6 (2.0)
皮膚有棘細胞癌	18 (6.1)	4 (1.3)	9 (3.0)	5 (1.7)
基底細胞癌	14 (4.7)	2 (0.7)	12 (4.0)	3 (1.0)
ボーエン病	8 (2.7)	1 (0.3)	3 (1.0)	0
皮膚癌	3 (1.0)	0	1 (0.3)	0
ケラトア坎トーマ	2 (0.7)	0	0	0
再発皮膚有棘細胞癌	1 (0.3)	0	1 (0.3)	0
皮膚神経内分泌癌	0	0	1 (0.3)	0

MedDRA/J version 26.1

例数(%)

国際共同第Ⅲ相試験(ECHO試験)において、アカラブルチニブ(カプセル剤)+ベンダムスチン+リツキシマブ併用投与群で死亡に至った二次性悪性腫瘍関連事象は2例(うち、1例はアカラブルチニブ(カプセル剤)との因果関係あり)報告されました。

国内臨床試験

二次性悪性腫瘍関連事象*は下表のとおり報告されています。

*：集計対象：MedDRA/J SMQ (標準検索式)「悪性腫瘍」、「悪性リンパ腫 (狭域)」,及び「骨髓異形成症候群 (狭域)」

国内第I相試験 (D8220C00001試験)

	CLL/SLL 再発又は難治性		CLL 未治療	
	再発又は難治性 CLL/SLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=9)		未治療CLLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) +オビヌツズマブ群 (N=10)	
	全Grade	Grade 3以上	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	1 (11.1)	0	0	0
二次性悪性腫瘍関連事象： 非黒色腫皮膚新生物以外	1 (11.1)	0	0	0

MedDRA/J version 24.0

例数 (%)

	MCL 再発又は難治性	
	再発又は難治性MCLコホート： アカラブルチニブ (カプセル剤) 群 (N=13)	
	全Grade	Grade 3以上
二次性悪性腫瘍関連事象	0	0

MedDRA/J version 25.0

例数 (%)

国内第I相試験 (D8220C00001試験)において、二次性悪性腫瘍関連事象が1例に認められました。報告された事象は、結腸癌 (Grade 2) でした。

2. 注意を要する副作用とその対策

発現時期

再発又は難治性CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における二次性悪性腫瘍関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)

CLL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=154)	3-＜6カ月 (N=151)	6-＜9カ月 (N=145)	9-＜12カ月 (N=142)	12-＜15カ月 (N=132)	15-＜18カ月 (N=91)	18-＜21カ月 (N=38)
二次性悪性腫瘍 関連事象	3 (1.9)	6 (4.0)	3 (2.1)	3 (2.1)	1 (0.8)	2 (2.2)	0

例数 (%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群又はアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群における二次性悪性腫瘍関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験)

CLL 未治療

アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=178)	3-＜6カ月 (N=178)	6-＜9カ月 (N=174)	9-＜12カ月 (N=171)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=167)	18-＜21カ月 (N=165)	21-＜24カ月 (N=164)	24カ月以降 (N=161)
二次性悪性腫瘍 関連事象	4 (2.2)	3 (1.7)	3 (1.7)	3 (1.8)	1 (0.6)	0	2 (1.2)	2 (1.2)	1 (0.6)

例数 (%)

アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=179)	3-＜6カ月 (N=175)	6-＜9カ月 (N=171)	9-＜12カ月 (N=169)	12-＜15カ月 (N=167)	15-＜18カ月 (N=166)	18-＜21カ月 (N=164)	21-＜24カ月 (N=162)	24カ月以降 (N=156)
二次性悪性腫瘍 関連事象	3 (1.7)	6 (3.4)	1 (0.6)	0	0	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	2 (1.3)

例数 (%)

未治療CLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトフラクス併用投与群における二次性悪性腫瘍関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)

CLL 未治療 (固定期間投与)

アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトフラクス併用投与群

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=291)	3-＜6カ月 (N=286)	6-＜9カ月 (N=279)	9-＜12カ月 (N=276)	12-＜15カ月 (N=267)	15-＜18カ月 (N=8)	18-＜21カ月 (N=1)	21-＜24カ月 (N=0)	24カ月以降 (N=0)
二次性悪性腫瘍 関連事象	3 (1.0)	5 (1.7)	1 (0.4)	5 (1.8)	1 (0.4)	0	0	0	0

例数 (%)

再発又は難治性MCL患者を対象とした海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) 群における二次性悪性腫瘍関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)

MCL 再発又は難治性

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=124)	3-＜6カ月 (N=108)	6-＜9カ月 (N=91)	9-＜12カ月 (N=77)	12-＜15カ月 (N=74)	15-＜18カ月 (N=70)	18-＜21カ月 (N=60)	21-＜24カ月 (N=56)	24カ月以降 (N=54)
二次性悪性腫瘍 関連事象	3 (2.4)	3 (2.8)	1 (1.1)	0	1 (1.4)	1 (1.4)	1 (1.7)	0	6 (11.1)

例数 (%)

未治療MCL患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験) のアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベンダムスチン + リツキシマブ併用投与群における二次性悪性腫瘍関連事象の初回発現時期は以下のとおりです。

国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)

MCL 未治療

初回発現時期	0-＜3カ月 (N=297)	3-＜6カ月 (N=277)	6-＜9カ月 (N=254)	9-＜12カ月 (N=239)	12-＜15カ月 (N=226)	15-＜18カ月 (N=211)	18-＜21カ月 (N=197)	21-＜24カ月 (N=192)	24カ月以降 (N=181)
二次性悪性腫瘍 関連事象	2 (0.7)	4 (1.4)	9 (3.5)	7 (2.9)	3 (1.3)	3 (1.4)	2 (1.0)	1 (0.5)	22 (12.2)

例数 (%)

2. 注意を要する副作用とその対策

対処法

本剤投与後に二次性悪性腫瘍があらわれることがあります。皮膚の二次性悪性腫瘍に関しては、皮膚の状態を観察する等、これらの発現に注意してください。

参考 臨床試験時の対応

皮膚以外の癌を含む二次性悪性腫瘍がアカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験で認められています。

モニタリング 最も高頻度で認められた二次性悪性腫瘍は皮膚癌であったため、アカラブルチニブ(カプセル剤)投与後は、皮膚癌の所見の有無をモニタリングすることとされていました^{1), 4), 5), 6)}。

対処法 二次性悪性腫瘍が認められた症例は、臨床的必要性に応じて診断評価を行い^{1), 4), 5), 6)}、施設内ガイドラインに応じて管理するとともに¹⁾⁻⁶⁾、アカラブルチニブ(カプセル剤)の投与中止も含めて投与処置を検討すること^{1), 4), 5), 6)}と規定されていました。

- 1) 国内第I相試験(D8220C00001試験)実施計画書
- 2) 海外第III相試験(ASCEND試験)実施計画書
- 3) 海外第III相試験(ELEVATE-TN試験)実施計画書
- 4) 海外第II相試験(ACE-LY-004試験)実施計画書
- 5) 国際共同第III相試験(ECHO試験)実施計画書
- 6) 海外第III相試験(AMPLIFY試験)実施計画書

3. 臨床試験における主な選択・除外基準

CLL患者を対象とした臨床試験の主な選択・除外基準は以下のとおりでした。

CLL患者を対象とした臨床試験の主な選択基準

(○印：組み入れられるもの)

		海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)	海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN 試験)	海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY 試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)	
選択基準		対象患者	再発又は 難治性CLL	未治療CLL*	再発又は 難治性CLL/SL	未治療CLL*
患者背景	18歳以上	○	—	○	—	—
	18歳超	—	○	—	—	—
	20歳以上	—	—	—	○	○
	ECOG PS 2以下	○	○	○	○	○
病態	1レジメン以上の前治療(全身療法)	○	—	—	○	—
	CLLの診断基準(IWCLLガイドライン (2008年版))を満たす	○ ^{注1)}	○ ^{注1)}	—	○	○ ^{注1)}
	CLLの診断基準(IWCLLガイドライン (2018年版))を満たす	—	—	○	—	—
	IWCLLガイドライン(2008年版)で治療を 必要とする活動性疾患に少なくとも1つ該 当する	○	○	—	○	—
	IWCLLガイドライン(2018年版)で治療を 必要とする活動性疾患に少なくとも1つ該 当する	—	—	○	—	○
血液学的 機能	絶対好中球数750/ μ L以上もしくは骨髓浸 潤がある患者で500/ μ L以上(評価前7日 間に成長因子投与を受けていない)	○	○	○	○	○
	血小板数50,000/ μ L以上もしくは骨髓浸 潤がある患者で血小板数30,000/ μ L以上 (評価前7日間に血小板輸血を受けていな い)	○	○	○	○	○
	AST値及びALT値がULNの2倍以下	○	—	—	○	—
	AST値及びALT値がULNの2.5倍以下	—	—	○	—	—
	AST値及びALT値がULNの3倍以下	—	○	—	—	○
	総ビリルビン値がULNの1.5倍以下	○	○	—	○ ^{注2)}	○ ^{注2)}
	総ビリルビン値がULNの2倍以下	—	—	○ ^{注3)}	—	—
	推算クレアチンクリアランス**が30mL/ min以上	○	○	—	— ^{注4)}	— ^{注4)}
	推算クレアチンクリアランス**が50mL/ min以上もしくはフルダラビン+シクロホス ファミド+リツキシマブ[FCR]又はベンダム スチン+リツキシマブ[BR]群においてFCR 投与を受けた場合は、推算クレアチンク リアランス**が70mL/min以上	—	—	○	—	—
	血清アミラーゼがULNの1.5倍以下又は血 清リパーゼがULNの1.5倍以下	—	—	—	○	—

*：65歳以上、又は65歳未満で併存疾患を有する(①クレアチンクリアランスが30～69mL/min、②Cumulative Illness Rating Scale for Geriatric (CIRS-G)スコアが6超の少なくとも1つを満たす)患者が対象とされた。

**：クレアチンクリアランス値はCockcroft-Gault式で算出：(140-年齢)×体重(kg)/(72×クレアチニン値[mg/dL])、女性の場合はこれに0.85を掛ける。

注1) CD20陽性のCLL

注2) ジルベール病を有する場合はULNの2.5倍以下

注3) ジルベール病に直接起因する場合を除く。

注4) クレアチンクリアランス値は除外基準に含まれる。

3. 臨床試験における主な選択・除外基準

Cumulative Illness Rating Scale for Geriatric (CIRS-G)

CIRS-Gは、高齢患者の疾患の重症度及び併存疾患の指標であり、14領域を各5段階で評価するものです。評価方法は下記のとおりです^{1), 2)}。アカラブルチニブ(カプセル剤)の臨床試験では、14領域の重症度を5段階で評価し、各領域の評価の合計値を用いています。

※本資料では、参考資料の英文を和訳して記載しています。

評価方法²⁾

●14領域

心臓	眼、耳、鼻、喉、喉頭	腎	内分泌、代謝、乳腺
血管	上部消化管	泌尿生殖器	精神疾患
造血	下部消化管	筋骨格、皮膚	
呼吸器	肝臓	神経	

●各臓器系の具体的なスコア指針は下記のとおりです。

0：問題なし

1：現在軽度の問題がある、又は過去に重大な問題があった

2：中等度の障害又は病状/一次治療開始を要する

3：重症/持続する重大な障害/コントロール不能で慢性的な問題がある

4：非常に重症/緊急の治療を要する/末期の臓器不全/高度な機能障害

1) Extermann M. et al.: J Clin Oncol. 1998; 16(4): 1582-1587.

2) Miller MD. et al.: Psychiatry Res. 1992; 41(3): 237-248.

CLL患者を対象とした臨床試験の主な除外基準

(○印：除外されるもの)

		海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)	海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN 試験)	海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)	
除外基準		再発又は 難治性CLL	未治療CLL*	未治療CLL (固定期間投与)	再発又は 難治性CLL/SL	未治療CLL*
病態	前リンパ球性白血病	○	○	○ ^{注5)}	○	○
	リヒター形質転換の既往があるか現時点で疑われる患者	○	○	○ ^{注5)}	○	○
	悪性度の高い非ホジキンリンパ腫への形質転換 ^{注5)}	—	—	○	—	—
	リンパ腫/白血病による中枢神経系浸潤	○	○	○	○	○
	17p欠失/TP53変異あり	—	—	○	—	—
	眼・耳・鼻・咽頭・喉頭及び現病関連臓器を除く領域における各CIRS-Gスコアが4以上、又は総CIRS-Gスコアが6を超える、併存疾患もしくは臓器系の障害	—	—	○	—	—
前治療	CLLに対する治療歴(全身療法)	—	○	○ ^{注6)}	—	○
	BCR阻害剤(BTK阻害剤、PI3K阻害剤等)あるいはBCL-2阻害剤による前治療	○	—	—	○	—
	放射線又は毒素結合抗体療法の前治療	○	—	—	—	—
	化学療法、体外照射療法、抗体療法又は試験薬による治療(試験薬の初回投与前30日以内)	○	—	—	—	—
	直近の化学療法(試験的療法を含む)の最終投与から試験薬初回投与までの期間が前治療で投与した薬剤の半減期の5倍未満	—	—	—	○	—
	白血病、リンパ腫又は骨髄腫のための生物製剤療法又は免疫療法(試験的療法を含む)の治療 ^{注7)} (試験薬の初回投与前4週間以内)	—	—	—	○	—

(○印：除外されるもの)

		海外第Ⅲ相試験 (ASCEND試験)	海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN 試験)	海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)	
除外基準	対象患者	再発又は 難治性CLL	未治療CLL*	未治療CLL (固定期間投与)	再発又は 難治性CLL/SLL	未治療CLL*
既往歴/ 合併症	コントロール不良の自己免疫性溶血性貧血又は特発性血小板減少性紫斑病	○	○	○	○	○
	出血性素因	○	○	○	○	○
	他の悪性腫瘍	○ ^{注8)}	○ ^{注9)}	○ ^{注10)}	○ ^{注11)}	○ ^{注11)}
	重大な循環器疾患 ^{注12)}	○	○	○	○	○
	肝疾患 ^{注13)}	○	—	—	○	○
	消化管潰瘍	○	○	—	○	○
	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染	○	○	○	○	○
	活動性サイトメガロウイルス(CMV)感染	○	—	○	—	—
	活動性のB型又はC型肝炎ウイルス感染	○	○	○	○	○
	コントロール不良な活動性の全身感染症	○	○	○	○	○
	薬物性肺臓炎	○	—	—	○	○
	脳卒中又は頭蓋内出血(試験薬の初回投与前6ヵ月以内)	○	○	○	○	○
アカラブル チニブ (カプセル 剤) 治療前の その他の 治療	大きな外科的処置	○ ^{注14)}	○ ^{注15)}	○ ^{注14)}	○ ^{注15)}	○ ^{注15)}
	生ウイルスワクチン接種	○ ^{注16)}	○ ^{注15)}	○ ^{注16)}	—	—
	ワルファリン又は同等のビタミンK拮抗薬による抗凝固療法を要する	○	○	○	○	○
	強力なCYP3A阻害剤/誘導剤による治療を要する	○	○	○ ^{注17)}	○ ^{注18)}	○ ^{注18)}
	プロトンポンプ阻害剤による治療を要する	○	○	—	○	○
	全身性のステロイド等の免疫抑制療法を受けている	○	○	—	○	○
血液学的 機能	推算クレアチンクリアランス**が30mL/min未満	— ^{注19)}	—	—	○	○
患者の 状態	吸収不良症候群、又は経口試験薬の吸収を損なう状態	○	○	○	○	○

*：65歳以上、又は65歳未満で併存疾患を有する(①クレアチンクリアランスが30～69mL/min、②Cumulative Illness Rating Scale for Geriatric (CIRS-G)スコアが6超の少なくとも1つを満たす)患者が対象とされた。

→CIRS-Gの評価方法は74ページ参照

**：クレアチンクリアランス値はCockcroft-Gault 式で算出：(140-年齢)×体重(kg)/(72×クレアチニン値[mg/dL])、女性の場合はこれに0.85を掛ける。

注5)例：リヒター形質転換、前リンパ球性白血病、又はびまん性大細胞型B細胞リンパ腫

注6)CLLに特異的な治療歴(緊急に必要な介入のために投与されたコルチコステロイド治療を除く；試験治療開始前10日以内であれば、1日20mgまでのprednisoneの投与量に相当するもののみが許可される)

注7)リツキシマブ等のモノクローナル抗体療法、がんワクチン療法を含むが、これらに限定しない。

注8)十分に治療された悪性黒色腫、非黒色腫性皮膚癌、上皮内癌、スクリーニングの2年以上前に活動性の疾患の証拠がなく再発のリスクが低い他の悪性腫瘍を除く。

注9)十分に治療された悪性黒色腫、非黒色腫性皮膚癌、子宮頸癌、スクリーニングの3年以上前に活動性の疾患の証拠がなく再発のリスクが低い他の悪性腫瘍を除く。

注10)根治的治療を受けた基底細胞癌、皮膚有棘細胞癌、子宮頸部及び前立腺の上皮内癌。左記に特記されていないその他のがん、手術及び/又は放射線療法により根治的治療が行われ、その後の追加治療なしに無病期間が3年以上であるもの

注11)2年以上前の子宮頸部上皮内癌、非黒色腫性皮膚癌、外科的に治癒した乳管上皮内癌等の非浸潤性悪性腫瘍を除く。

注12)コントロール不能又は症候性の不整脈、うっ血性心不全、スクリーニング前6ヵ月以内の心筋梗塞、NYHA分類3又は4の心疾患のある患者、あるいはQTc(Fridericia法による補正QT間隔)が480msecを超える場合等

注13)薬物性肝障害、アルコール性肝疾患、非アルコール性脂肪性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、胆石症による肝外性閉塞症、肝硬変、又は門脈圧亢進症

注14)試験薬の初回投与前30日以内

注15)試験薬の初回投与前4週間以内

注16)試験薬の初回投与前28日以内

注17)試験薬初回投与後7日以内に、強力又は中程度のCYP3A阻害剤/誘導剤の投与が必要になると予想される場合

注18)試験薬投与前7日以内に投与した場合又は試験薬投与後28日以内の投与が必要になると予想される場合

注19)クレアチンクリアランス値は選択基準に含まれる。

3. 臨床試験における主な選択・除外基準

MCL患者を対象とした臨床試験の主な選択・除外基準は以下のとおりでした。

MCL患者を対象とした臨床試験の主な選択基準

(○印：組み入れられるもの)

		海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)	国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)
対象患者		再発又は難治性MCL	未治療MCL	再発又は難治性MCL
選択基準				
患者背景	18歳以上	○	—	—
	20歳以上	—	—	○
	65歳以上	—	○	—
	ECOG PS 2以下	○	○	○
前治療	1レジメン以上の前治療	○ ^{注1)}	—	○ ^{注2)}
	MCLに対する治療歴が1回以上5回以下	○	—	—
	MCLに対する治療歴(全身療法)がない	—	○	—
病態	病理学的にMCLと確定診断	○	○	—
	放射線画像上で測定可能なリンパ節腫大又は 節外性リンパ系腫瘍がある	○	○	○
	染色体転座t(11;14)(q13;q32)及び／又は サイクリンD1過剰発現を有する	○	○	—
	上記、並びに関連するその他の重要なマーカー (例：CD5、CD19、CD20、PAX5)を確認	—	○	—
血液学的 機能	絶対好中球数750/ μ L以上もしくは骨髄浸潤が ある患者で500/ μ L以上(評価前7日間に成長 因子投与を受けていない)	— ^{注3)}	— ^{注3)}	○
	血小板数50,000/ μ L以上もしくは骨髄浸潤が ある患者で30,000/ μ L以上(評価前7日間に血 小板輸血を受けていない)	— ^{注4)}	— ^{注4)}	○
	AST値及びALT値がULNの2倍以下	— ^{注5)}	— ^{注5)}	○
	総ビリルビン値がULNの1.5倍以下	— ^{注6)}	— ^{注6)}	○ ^{注7)}
	血清アミラーゼがULNの1.5倍以下又は血清リ パーゼがULNの1.5倍以下	—	—	○

注1) 直近の治療レジメンで部分奏効(PR)以上を達成できなかった、又は直近の治療レジメン施行後に病勢進行が確認されており、再発又は治療抵抗性で更なる治療を要すること。

注2) 直近の治療レジメンで部分奏効(PR)以上を達成できなかった、又は直近の治療レジメン施行後に病勢進行が確認されていること。

注3) 絶対好中球数は除外基準に含まれる。

注4) 血小板数は除外基準に含まれる。

注5) AST値及びALT値は除外基準に含まれる。

注6) 総ビリルビン値は除外基準に含まれる。

注7) ジルベール病を有する場合はULNの2.5倍以下

MCL患者を対象とした臨床試験の主な除外基準

(○印：除外されるもの)

		海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)	国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)
除外基準	対象患者	再発又は難治性MCL	未治療MCL	再発又は難治性MCL
病態	リンパ腫／白血病による中枢神経系浸潤	—	—	○
	中枢神経系リンパ腫又は軟膜・髄膜疾患の既往	○	○	—
前治療	BCR阻害剤(BTK阻害剤、PI3K阻害剤等)あるいはBCL-2阻害剤による前治療	○	—	○
	直近の化学療法(試験的療法を含む)の最終投与から治験薬初回投与までの期間が前治療で投与した薬剤の半減期の5倍未満	○	—	○
	免疫療法	○ ^{注8)}	—	○ ^{注8), 注9)}
既往歴/ 合併症	コントロール不良の自己免疫性溶血性貧血又は特発性血小板減少性紫斑病	○	○	○
	出血性素因	○	○	○
	悪性腫瘍	○ ^{注10)}	○ ^{注11)}	○ ^{注12)}
	重大な循環器疾患	○ ^{注13)}	○ ^{注14)}	○ ^{注13)}
	肝疾患	—	—	○ ^{注15)}
	消化管潰瘍	○ ^{注16)}	○ ^{注17)}	○ ^{注16)}
	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染	○	○	○
	活動性サイトメガロウイルス(CMV)感染	—	○	—
	活動性のB型又はC型肝炎ウイルス感染	○	○	○
	コントロール不良な全身感染症	○	○	○
	薬物性肺臓炎	—	—	○
	脳卒中又は頭蓋内出血	○ ^{注18)}	○ ^{注18)}	○ ^{注18)}
アカラブル チニブ (カプセル 剤) 治療前の その他の 治療	大きな外科的処置	○ ^{注8)}	○ ^{注19)}	○ ^{注8)}
	生ワクチン接種	—	○ ^{注19)}	—
	ワルファリン又は同等のビタミンK拮抗薬の投与を要する	○ ^{注20)}	○ ^{注20)}	○ ^{注20)}
	強力なCYP3A阻害剤/誘導剤による治療を要する	○	○	○ ^{注21)}
	プロトンポンプ阻害剤による治療を要する	○	○	○
	全身性のステロイド等の免疫抑制療法を受けている	○	○ ^{注22)}	○
	注腸ステロイド等の免疫抑制療法を受けている	○	—	○

3. 臨床試験における主な選択・除外基準

(○印：除外されるもの)

		海外第Ⅱ相試験 (ACE-LY-004試験)	国際共同第Ⅲ相試験 (ECHO試験)	国内第Ⅰ相試験 (D8220C00001試験)
除外基準	対象患者	再発又は難治性MCL	未治療MCL	再発又は難治性MCL
血液学的 機能	絶対好中球数750/ μ L未満又は血小板数50,000/ μ L未満; 骨髓浸潤がある患者は絶対好中球数500/ μ L未満又は血小板数30,000/ μ L未満	○	—	— ^{注23)}
	絶対好中球数1,000/ μ L未満又は血小板数75,000/ μ L未満; 骨髓浸潤がある患者は絶対好中球数750/ μ L未満又は血小板数50,000/ μ L未満	—	○	— ^{注23)}
	総ビリルビン値がULNの1.5倍超又はAST値もしくはALT値がULNの2.5倍超	—	○	— ^{注24), 注25)}
	AST値又はALT値がULNの3倍超	○	—	— ^{注24)}
	総ビリルビン値がULNの2.5倍超	○	—	— ^{注25)}
	推算クレアチンクリアランス*が30mL/min未満	—	—	○
	推算クレアチンクリアランス*が50mL/min未満	—	○	—
	クレアチニン値がULNの2.5倍超	○	—	—
患者の 状態	吸収不良症候群、消化管機能に重大な影響を及ぼす疾患、胃切除、小腸切除、症候性の炎症性腸疾患、一部又は完全な腸閉塞、胃バイパス術等の実施	○	○	○

*：クレアチンクリアランス値はCockcroft-Gault式で算出：(140-年齢)×体重(kg)/(72×クレアチニン値[mg/dL])、女性の場合はこれに0.85を掛ける。

注8) 治験薬の初回投与前4週間以内

注9) 生物製剤療法又は免疫療法(試験的療法を含む)。白血病、リンパ腫又は骨髄腫のための治療であり、リツキシマブ等のモノクローナル抗体療法、がんワクチン療法を含むが、これらに限定しない。

注10) 適切に治療された基底細胞癌又は皮膚有棘細胞癌、子宮頸部上皮内癌、無病期間が2年以上又は生存期間が2年未満に制限されないその他の悪性腫瘍を除く。

注11) 治療が行われ、スクリーニング前2年超にわたって活動性腫瘍の証拠がなく再発のリスクが低い悪性腫瘍、適切な治療を受け、現時点で腫瘍の証拠がない悪性黒子由来黒色腫又は適切にコントロールされている非黒色腫皮膚癌、適切な治療を受け、現時点で腫瘍の証拠がない上皮内癌を除く。

注12) 過去2年以内に他の悪性腫瘍の既往がある患者。子宮頸部上皮内癌、非黒色腫皮膚癌、外科的に治療した乳管上皮内癌等の非浸潤性悪性腫瘍を除く。

注13) コントロール不能又は症候性の不整脈、うつ血性心不全、スクリーニング前6ヵ月以内の心筋梗塞、NYHA分類3又は4の心疾患のある患者、あるいはQTcが480msecを超える場合等

注14) コントロール不能又は未治療で症候性の不整脈、うつ血性心不全、治験使用薬の初回投与前6ヵ月以内の心筋梗塞、NYHA分類3又は4の心疾患のある患者、あるいはQTcが480msecを超える場合等

注15) 薬物性肝障害、アルコール性肝疾患、非アルコール性脂肪性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、胆石症による肝外性閉塞症、肝硬変、又は門脈圧亢進症

注16) スクリーニング前3ヵ月以内

注17) 治験薬の初回投与前3ヵ月以内

注18) 治験薬の初回投与前6ヵ月以内

注19) 治験薬の初回投与前28日以内

注20) 治験薬の初回投与前7日以内

注21) 治験薬投与前7日以内に投与した場合又は治験薬投与開始後28日以内の投与が必要になると予想される場合

注22) 治験薬の初回投与前2週間以内

注23) 絶対好中球数及び血小板数は選択基準に含まれる。

注24) AST値及びALT値は選択基準に含まれる。

注25) 総ビリルビン値は選択基準に含まれる。

4. Q&A

Q1 妊娠可能な女性に対する避妊期間の目安は？

A1 アカラブルチニブの非臨床試験（ラット/ウサギ）において胎児体重の減少や異常分娩が報告されています。アカラブルチニブの消失半減期に基づき、妊娠可能な女性に対しては、本剤の投与中及び最終投与から少なくとも2日間は避妊いただくよう指導してください。

<参考情報>

■ 本剤の電子化された添付文書では、以下のとおり記載しています。

9.4 生殖能を有する者

妊娠可能な女性に対しては、本剤投与中及び投与終了後一定期間は適切な避妊を行うよう指導すること。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないことが望ましい。アカラブルチニブの胚・胎児発生試験（ウサギ）において、臨床曝露量の約1.8倍の曝露に相当する用量で胎児体重の減少がみられた。また、アカラブルチニブの生殖発生毒性試験（ラット）において、臨床曝露量の1.8倍の曝露に相当する用量で分娩時間の延長や難産が報告されている。

■ アカラブルチニブ及び活性代謝物ACP-5862の消失半減期*はそれぞれ1.8時間及び3.2時間でした。薬物は消失半減期の5～7倍の時間経過により体内からほとんど消失すると考えられることから、本剤の最終投与後2日目にはアカラブルチニブ及びACP-5862は体内からほぼ消失していると考えられます。

*：日本人進行期B細胞性腫瘍患者を対象とした第I相試験において、アカラブルチニブ（カプセル剤）を反復投与したときのアカラブルチニブ及びACP-5862の消失半減期（算術平均値、n=6）

■ 臨床試験では、妊娠の可能性のある女性及び/又はパートナーが妊娠する可能性のある男性に対し、以下のとおり一定期間の避妊について同意することが求められました。

	妊娠の可能性のある女性			パートナーが妊娠する可能性のある男性		
	治験中	アカラブルチニブ（カプセル剤）の最終投与後2日間	アカラブルチニブ（カプセル剤）の最終投与後90日後	治験中	アカラブルチニブ（カプセル剤）の最終投与後2日間	アカラブルチニブ（カプセル剤）の最終投与後90日後
海外第Ⅲ相（ASCEND試験）	●	●	—	●	—注3)	—
海外第Ⅲ相（ELEVATE-TN試験）注1)	●	●	—	●	—注3)	—
海外第Ⅲ相試験（AMPLIFY試験）注1)	●	●	—	●	—	—
海外第Ⅱ相（ACE-LY-004試験）	●	●	—	—注3)	—注3)	—
国際共同第Ⅲ相（ECHO試験）注1),注2)	—	—	—	●	—注3)	—
国内第Ⅰ相（D8220C00001試験）注1)	●	—	●	●	—	●

注1) 併用療法時における他剤の最終投与後の避妊期間については、別途設定されている。

注2) 組入れ基準は65歳以上であるため、本治験に組み入れられる女性は生殖能がないとみなされた。

注3) フランスにおける国別の実施計画書では、アカラブルチニブ（カプセル剤）の治験中並びにアカラブルチニブ（カプセル剤）の最終投与後2日間と規定されていた。

Q2 授乳している女性への投与に際して注意点はありますか？

A2 本剤投与中及び本剤の最終投与から2日間は授乳しないことが推奨されます。

<参考情報>

ヒトにおける乳汁中への移行に関するデータはありませんが、アカラブルチニブの動物実験（ラット）において乳汁中への移行が認められており、本剤の薬理作用を考慮すると、乳児への悪影響が生じる可能性が否定できません。

4. Q&A

Q3

未治療のCLL (SLLを含む) について、オビヌツズマブを併用した場合と併用しない場合で有効性や安全性に違いはありますか？

A3

未治療のCLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (ELEVATE-TN試験) におけるアカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与及びアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与の有効性及び安全性の結果は以下のとおりです。臨床試験における有効性及び安全性の結果を確認の上、適切な治療法を選択ください。

海外第Ⅲ相試験: ELEVATE-TN試験 (海外データ) の概要^{1), 2)}

【目的・対象】 未治療のCLL患者^{注)} 535例に対するアカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与又はアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与の有効性と安全性を、オビヌツズマブ+chlorambucil*併用投与を対照群として検討する。

注) 65歳以上、又は65歳未満で併存疾患を有する (①クレアチニンクリアランスが30~69mL/min、②Cumulative Illness Rating Scale for Geriatric (CIRS-G) スコアが6超の少なくとも1つを満たす) 患者が対象とされた。

【方法】 試験薬投与は、28日間 (4週間) を1サイクルとした。

アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群及びアカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群では、サイクル1の1日目から病勢進行又は許容できない毒性が発現するまでアカラブルチニブ (カプセル剤) 100mgを1日2回経口投与した。

アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群及びオビヌツズマブ+chlorambucil*群では、オビヌツズマブを以下のスケジュールで合計6サイクルにわたり静脈内投与した。

	サイクル1	サイクル2	サイクル3	サイクル4	サイクル5	サイクル6	サイクル7
アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群	—	1日目: 100mg、 2日目: 900mg、 8日目及び15日目: 1000mg	各1日目: 1000mg				
オビヌツズマブ+chlorambucil*群	1日目: 100mg、 2日目: 900mg、 8日目及び15日目: 1000mg	各1日目: 1000mg					—

オビヌツズマブ+chlorambucil*群ではchlorambucil*0.5mg/kgをサイクル1~6の1日目及び15日目に経口投与した。

【評価項目】

有効性の主要評価項目: 独立評価委員会 (IRC) 評価による無増悪生存期間 (PFS^{※1})

(検証的な解析項目) [アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群]

有効性の副次評価項目: ①IRC評価によるPFS^{※1} [アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群]

②IRC評価による全奏効率 (ORR^{※2})

[アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群]

③IRC評価によるORR^{※2} [アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群]

④全生存期間 (OS^{※3}) [アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ併用投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群]

⑤OS^{※3} [アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 vs オビヌツズマブ+chlorambucil*群] 等

※1: 無作為割付け日から最初のIRC評価による病勢進行又は原因を問わない死亡のいずれか早い時点までの期間

※2: 後治療開始時までには得られた、IWCLL2008基準に基づくIRC評価による最良効果がCR、CRi、nPR又はPRであった被験者の割合

※3: 無作為割付け日から原因を問わない死亡までの期間

1) 社内資料: アカラブルチニブの海外第Ⅲ相試験 (ACE-CL-007 [ELEVATE-TN]) [承認時評価資料]

2) Sharman JP. et al.: Lancet. 2020; 395(10232): 1278-1291.

【利益相反】本試験はアストラゼネカグループのAcerta Pharma社の支援により実施された。著者にアストラゼネカ社及びAcerta Pharma社より資金提供を受けた者、Acerta Pharma社の社員が含まれる。

本邦におけるオビヌツズマブのCD20陽性の慢性リンパ性白血病 (小リンパ球性リンパ腫を含む) に対する用法及び用量 (2025年11月改訂):

アカラブルチニブとの併用において、通常、成人には、オビヌツズマブ (遺伝子組換え) として、アカラブルチニブとの併用での1サイクル目の1日目に100mg、2日目に900mg、8日目及び15日目に1000mg、2サイクル目以降は1日目に1000mgを点滴静注する。28日間を1サイクルとし、最大で6サイクル投与を繰り返す。

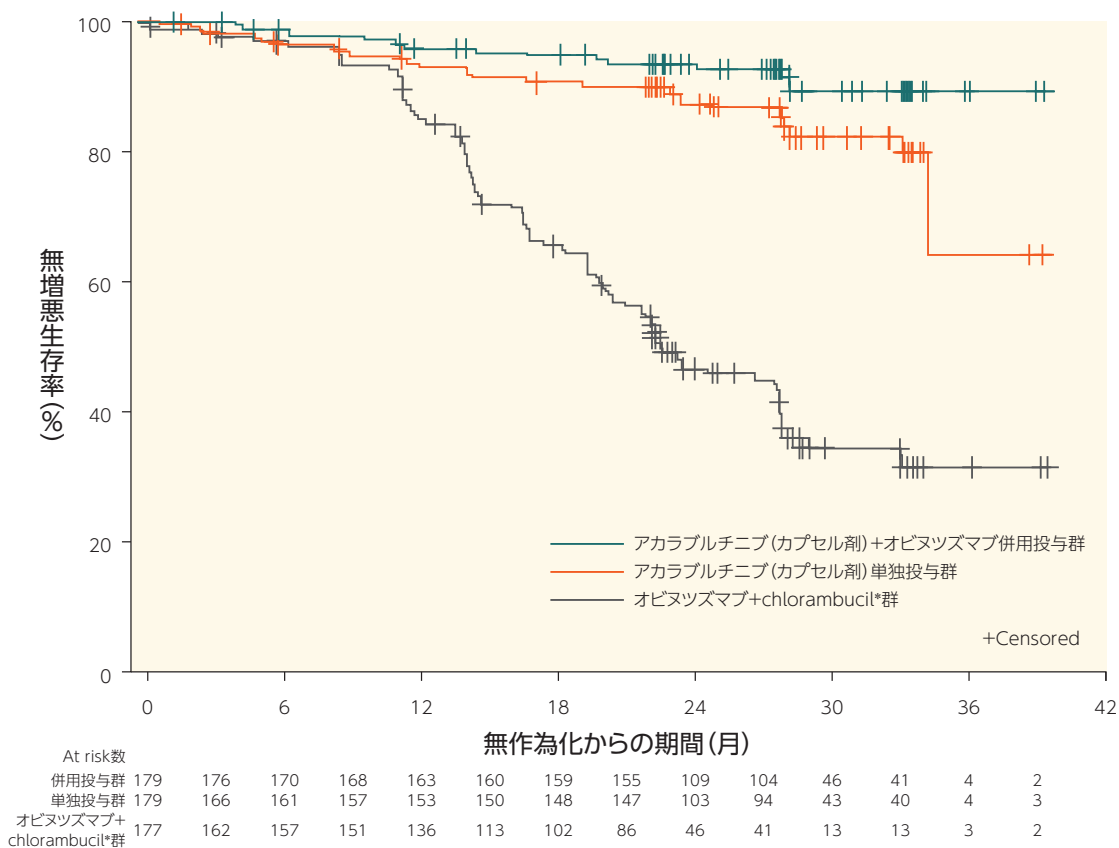
【解析計画】中間解析で主要評価項目が達成された場合は、副次評価項目の検定を①～⑤の順に階層的に実施し、有意差が認められなかった場合は後続のすべての評価項目のp値は名目上のものとして提示された。中間解析における有意水準は、PFS及びOSで両側0.012、ORRは両側0.05とした。PFS、OSはKaplan-Meier曲線を用いて推定した。層別割付け因子で調整した層別Cox比例ハザードモデルを用いてハザード比の推定値及び95%信頼区間(CI)を求め、群間比較には、層別割付け因子で調整した層別Log-rank検定を用いた。ORRは、層別割付け因子で調整したCochran-Mantel-Haenszel(CMH)検定を用いて解析した。

*：chlorambucilは本邦未承認

ELEVATE-TN試験の中間解析結果(2019年2月8日データカットオフ)

■有効性

IRC評価によるPFS[主要評価項目(検証的な解析結果)、副次評価項目]



	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌズマブ併用投与群(N=179)	アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	オビヌズマブ+ chlorambucil*群 (N=177)
死亡又は増悪、例数(%)	14(7.8)	26(14.5)	93(52.5)
中央値(95%CI)、カ月	NE(NE, NE)	NE(34.2, NE)	22.6(20.2, 27.6)
ハザード比 ^a (95%CI)	0.10(0.06, 0.17)	0.20(0.13, 0.30)	—
p値(両側) ^b	<0.0001 ^{c, d} [主要評価項目]	<0.0001 ^{c, e} [副次評価項目]	—

a：17p欠失の有無を層別因子とした層別Cox比例ハザードモデルにより算出

b：17p欠失の有無を層別因子とした層別Log-rank検定、有意水準両側0.0102(実際の中間解析時点のイベント数からO'Brien-Fleming型の α 消費関数を用いて算出された有意水準)

c：オビヌズマブ+chlorambucil*群との比較

d：検証的な解析によるp値

e：多重性が調整されたp値

*：chlorambucilは本邦未承認

NE：推定不能

4. Q&A

IRC評価によるORR[副次評価項目]

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ 併用投与群 (N=179)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	オビヌツズマブ+ chlorambucil*群 (N=177)
ORR, 例数 (%) 95%CI ^a	168 (93.9) (89.3, 96.5)	153 (85.5) (79.6, 89.9)	139 (78.5) (71.9, 83.9)
オビヌツズマブ+chlorambucil*群との差, % (95%CI ^a) p値 (両側) ^b	15.3 (8.3, 22.3) <0.0001 ^c	6.9 (-1.0, 14.9) 0.0763 ^{c, d}	—
最良奏効, 例数 (%)			
CR	23 (12.8)	1 (0.6)	8 (4.5)
CRi	1 (0.6)	0	0
nPR	1 (0.6)	2 (1.1)	3 (1.7)
PR	143 (79.9)	150 (83.8)	128 (72.3)
PRL	0	2 (1.1)	0
SD	4 (2.2)	8 (4.5)	15 (8.5)
Non-PD	1 (0.6)	0	2 (1.1)
NED	0	0	1 (0.6)
PD	0	3 (1.7)	0
不明又は欠測	6 (3.4)	12 (6.7)	12 (6.8)
評価不能	0	1 (0.6)	8 (4.5)

ORR: CR+CRi+nPR+PR

a: 正規近似に基づく95%CI (Wilsonのスコア法)

b: 17p欠失の有無で調整したCMH検定、有意水準両側0.05

c: 多重性が調整されたp値

d: 有意差が認められなかったため、ここで階層的検定が終了した

*: chlorambucilは本邦未承認

■安全性

安全性の概要

	例数 (%)			
	アカラブルチニブ (カプセル剤) + オビヌツズマブ 併用投与群 (N=178)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	オビヌツズマブ+ chlorambucil*群 (N=169)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 切替え投与例** (N=45)
全有害事象	171 (96.1)	170 (95.0)	167 (98.8)	37 (82.2)
Grade 3以上の有害事象	125 (70.2)	89 (49.7)	118 (69.8)	10 (22.2)
死亡に至った有害事象	3 (1.7)	3 (1.7)	2 (1.2)	1 (2.2)
重篤な有害事象	69 (38.8)	57 (31.8)	37 (21.9)	6 (13.3)
投与中止 ^a に至った有害事象	6 (3.4)	17 (9.5)	7 (4.1)	3 (6.7)
休薬 ^b に至った有害事象	105 (59.0)	61 (34.1)	125 (74.0)	8 (17.8)
減量 ^b に至った有害事象	14 (7.9)	7 (3.9)	45 (26.6)	3 (6.7)

a: アカラブルチニブ(カプセル剤)を含むすべての治験薬の投与中止

b: アカラブルチニブ(カプセル剤)、オビヌツズマブ又はchlorambucil*のいずれか1剤以上の休薬又は減量

*: chlorambucilは本邦未承認

** : オビヌツズマブ+chlorambucil*群のうちアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与に切り替えた後に認められた有害事象

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群とアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で発現率の差が5%以上の有害事象一覧

	例数 (%)		発現率の差、%
	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 (N=178)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 vs アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群
全有害事象	171 (96.1)	170 (95.0)	1.1
好中球減少症	56 (31.5)	19 (10.6)	20.9
注入に伴う反応	24 (13.5)	0	13.5
疲労	50 (28.1)	33 (18.4)	9.7
挫傷	42 (23.6)	27 (15.1)	8.5
悪寒	20 (11.2)	8 (4.5)	6.7
浮動性めまい	32 (18.0)	21 (11.7)	6.3
四肢痛	22 (12.4)	11 (6.1)	6.3
関節痛	39 (21.9)	28 (15.6)	6.3
発熱	23 (12.9)	12 (6.7)	6.2
血小板減少症	23 (12.9)	13 (7.3)	5.6
低カリウム血症	12 (6.7)	2 (1.1)	5.6

MedDRA/J version 21.1

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群とアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で発現率の差が2%以上のGrade 3以上の有害事象一覧

	例数 (%)		発現率の差、%
	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 (N=178)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 vs アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群
Grade 3以上の有害事象	125 (70.2)	89 (49.7)	20.5
好中球減少症	53 (29.8)	17 (9.5)	20.3
血小板減少症	15 (8.4)	5 (2.8)	5.6
下痢	8 (4.5)	1 (0.6)	3.9
肺炎	10 (5.6)	4 (2.2)	3.4
注入に伴う反応	4 (2.2)	0	2.2
上気道感染	4 (2.2)	0	2.2
アラニンアミノトランス フェラーゼ増加	5 (2.8)	1 (0.6)	2.2

MedDRA/J version 21.1

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群とアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群で発現率の差が2%以上の休薬に至った有害事象一覧

	例数 (%)		発現率の差、%
	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 (N=178)	アカラブルチニブ (カプセル剤) 単独投与群 (N=179)	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ オビヌツズマブ併用投与群 vs アカラブルチニブ(カプセル剤) 単独投与群
休薬 ^a に至った有害事象	105 (59.0)	61 (34.1)	24.9
好中球減少症	36 (20.2)	9 (5.0)	15.2
注入に伴う反応	18 (10.1)	0	10.1
血小板減少症	9 (5.1)	1 (0.6)	4.5
肺炎	7 (3.9)	2 (1.1)	2.8
発疹	4 (2.2)	0	2.2

MedDRA/J version 21.1

a：アカラブルチニブ(カプセル剤)又はオビヌツズマブのいずれか1剤以上の休薬

アカラブルチニブ(カプセル剤)+オビヌツズマブ併用投与群とアカラブルチニブ(カプセル剤)単独投与群との間で、発現率に2%以上の差異が認められた死亡に至った有害事象、治験薬の投与中止に至った有害事象及び治験薬の減量に至った有害事象はなかった。

4. Q&A

Q4

未治療のCLL (SLLを含む) 患者について、「本剤、ベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用について、有効性及び安全性は確立していない。」と電子化された添付文書に記載されたのはなぜですか？

A4

未治療のCLL患者を対象とした海外第Ⅲ相試験 (AMPLIFY試験) における、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与及びアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与の、有効性及び安全性の結果は以下のとおりです。

AMPLIFY試験 (2024年4月30日データカットオフ時点) において、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群は、対照群 (FCR/BR群) との比較においてPFS (副次評価項目) を検証し、下記の結果を得ました。しかしながら、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群及びアカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ併用投与群のOSの中間解析結果と有害事象発現状況をもとに、アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス併用投与群に対するベネフィット・リスクバランスを探索的に検討した結果、本剤とベネトクラクス及びオビヌツズマブ (遺伝子組換え) の併用は、中間解析の結果からは推奨できないと判断されました。

海外第Ⅲ相試験：AMPLIFY試験の概要

未治療の慢性リンパ性白血病患者^{*1} 867例を対象に、アカラブルチニブ (カプセル剤) をベネトクラクスと併用^{*2}又はアカラブルチニブ (カプセル剤) をベネトクラクス + オビヌツズマブと併用したときの有効性及び安全性を治験担当医師が選択する化学免疫療法 (FCR/BR) (対照群)^{*3}と比較する非盲検無作為化第Ⅲ相試験を実施した。

※1：18歳以上の重大な併存疾患を有さない患者 (①総CIRS-Gスコアが6以下、並びに眼、耳、鼻、咽頭及び喉頭及び現病関連臓器を除く領域における各CIRS-Gスコアについて4未満、②CrCLが50mL/min以上 (対照群においてFCR (フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ) を投与される患者は70mL/min以上) であり、かつ17番染色体短腕欠失又はTP53変異のない患者が対象とされた。

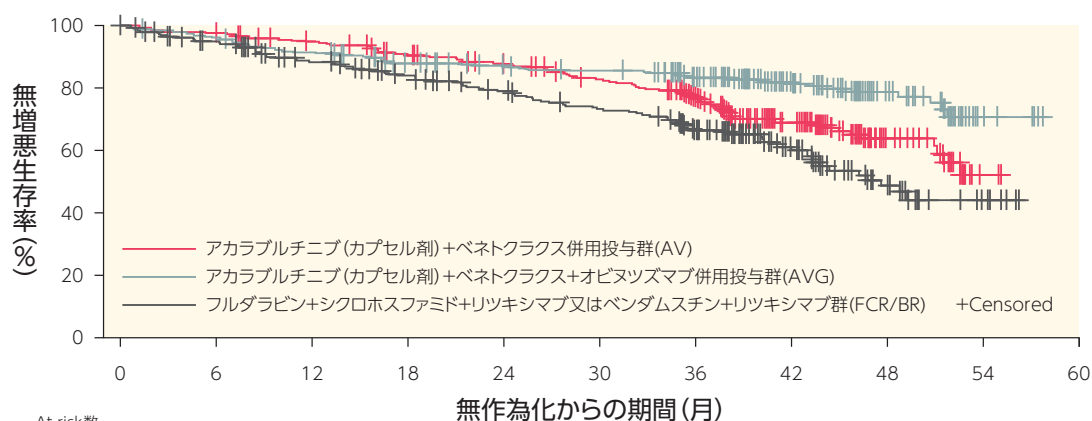
※2：28日間を1サイクルとし、アカラブルチニブ (カプセル剤) 1回100mgを1日2回、サイクル1のDay1から14サイクル投与した。ベネトクラクスはサイクル3のDay1から投与を開始し、5週間の用量漸増期 (第1週目に20mg、第2週目に50mg、第3週目に100mg、第4週目に200mg、第5週目に400mgをそれぞれ1日1回、7日間投与) 後、400mg1日1回でサイクル14まで投与を継続した。

※3：FCR (フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ) 又はBR (ベンダムスチン + リツキシマブ) を最大6サイクル投与した。

AMPLIFY試験の中間解析結果 (2024年4月30日データカットオフ)

■有効性

IRC評価によるPFS [主要評価項目 (検証的な解析結果)、副次評価項目]



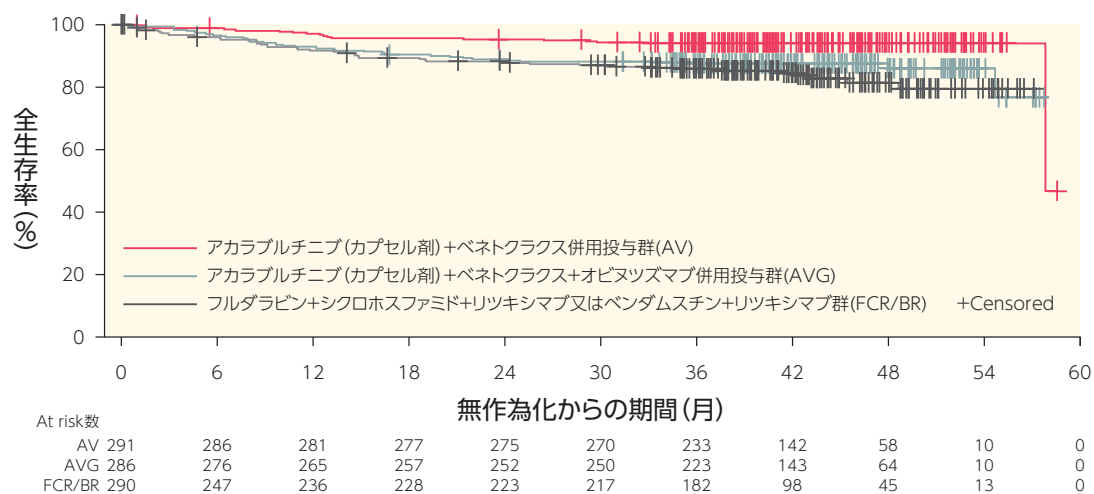
At risk数	0	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60
AV	291	282	269	251	237	219	177	102	35	3	0
AVG	286	272	258	237	225	219	191	116	51	7	0
FCR/BR	290	236	208	189	170	154	127	66	28	6	0

	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス 併用投与群 (N=291)	アカラブルチニブ (カプセル剤) + ベネトクラクス + オビヌツズマブ 併用投与群 (N=286)	フルダラビン + シクロホスファミド + リツキシマブ又はベンダムスチン + リツキシマブ群 (N=290)
イベント [*] 、例数 (%)	89 (30.6)	56 (19.6)	95 (32.8)
中央値 (95%CI)、カ月	NC (51.1, NC)	NC (NC, NC)	47.6 (43.3, NC)
ハザード比 (95%CI)	0.65 (0.49, 0.87)	0.42 (0.30, 0.59)	—
p値	0.0038 [主要評価項目]	<0.0001 [副次評価項目]	—

*：死亡又は増悪

NC：not calculated

OS[副次評価項目]



	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群(N=291)	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス+オビヌツズマブ 併用投与群(N=286)	フルダラビン+シクロホスファミド+ リツキシマブ又はベンダムスチン+ リツキシマブ群(N=290)
イベント*, 例数(%)	18(6.2)	37(12.9)	42(14.5)
中央値(95%CI)、カ月	57.8(57.8, NC)	NC (NC, NC)	NC (NC, NC)
ハザード比(95%CI)	0.33(0.18, 0.56)	0.76(0.49, 1.18)	—
p値	<0.0001	0.2224	—

*: 死亡

NC: not calculated

■安全性

有害事象の発現状況

	例数 (%)		
	アカラブルチニブ (カプセル剤)+ ベネトクラクス 併用投与群(N=291)	アカラブルチニブ(カプセル剤)+ ベネトクラクス+ オビヌツズマブ 併用投与群(N=284)	フルダラビン+シクロホスファミド+ リツキシマブ又はベンダムスチン+ リツキシマブ群(N=259)
全有害事象	270(92.8)	269(94.7)	236(91.1)
Grade 3以上の有害事象	156(53.6)	197(69.4)	157(60.6)
死亡に至った有害事象	10(3.4)	17(6.0)	9(3.5)
重篤な有害事象	72(24.7)	109(38.4)	71(27.4)

